

法音

今月の法話

怒りほど恐ろしいものはありません。堪忍をしましょう。

日蓮宗

法音寺

平成 28 年

12 月号

No.566



一人が一人を

是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。
法華経には、一人を導く功德は広大である
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が又大きい
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

月刊・法音

平成二十八年十二月号「566」

■目次■

【信仰の指針】いんにん 隠忍

【朝のこない夜はない】

怒りほど恐ろしいものはありません。

堪忍をしましよう。

山首 鈴木正修

■ 顕修院日達上人の御祥月命日法要が執り行われます

■ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

■ 特別企画・聖の教え(十二)

■ とこのはの記 病と法華経

■ 読者の声 辻 淑子(和泉支院)

■ のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

■ 福祉のひろば 少子・高齢社会の中の日本の福祉

■ 福祉に生きる 児童養護施設・名古屋若松寮の実践

■ 高校生の『ふくしまインド』を育む

■ 賛助員ご芳名

■ 幸せの種まき／編集後記

■ 連載まんが・ひまわり・48 学級委員

■ 法音寺関連書籍のご案内

■ 法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・シクラメン

掲載写真

表紙・信仰の指針・3

15頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

隠忍 いん にん

ピンと堪えることができてきますか

目次 五



お茶の花



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

怒りほどいか

恐ろしいものはありません。おそ

堪忍をしましょう。かんにん

常日頃から堪忍の大切さを聞いている私たちですが、つねひごろ
凡夫の悲しさか、ついつい愚痴を言ったり怒ったりしてぼんぶ
しまいます。また、世の中には本当に腹の立つような出よ
来事もあります。ですから、我慢ばかりしていると体きごと
に悪い。たまには怒って発散した方がよいという人もわる
いますが、それは間違いです。まちが



チベット仏教の指導者・ダライ・ラマ法王は「怒って
良いことは何も無い」と言われています。アメリカのお
医者さんとの対談で言われたことですが、そのお医者さ
んが「もし人が怒らなくなったら心臓病や、脳の血管の
病気はかなり減るだろう」と言われています。つまり人
は、怒ることによって血管が詰ったり切れたりするこ
とが多いということです。またそのお医者さんは「怒り
を発散させるように外に出し、爆発させることが体には
もっとも悪い」と言われています。

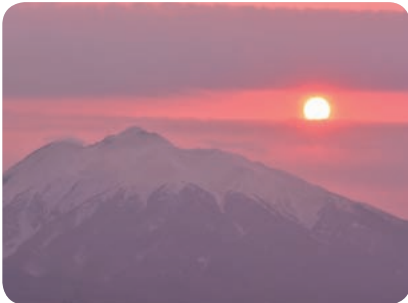
私もそう思います。怒りや愚痴は一度口に出すと止ま
らなくなります。やはり、ならぬ堪忍するが堪忍が肝
心です。



信念

渡邊秋男さんという昔の信者さんの体験談が、三徳開教百年史の別巻に載っています。

渡邊さんがある人に、人生には三徳が必要なこと、堪忍の大切なことを伝えたところ、その人は色をなして「それは確かに君の言う通り正しいことに違いない。しかしだ、君はまだ若いからそんなことを言うのだ。世間というものはそんなものではない。『あんなひどいことを言われれば怒るのはあたりまえだ』等と、むしろ怒らないことを馬鹿にする場合がある。又、あまりに正直一途の人間を、『あいつは馬鹿正直だ』等と嘲笑する場合もある。慈悲とか至誠とかいうものは結局は、世間を渡



り歩く表道具に過ぎない。君だって時には怒りたいこともあるだろうし、怒ることもあるではないか。どんな人間だって口に唱えている程立派な奴はおらん」と言われたそうです。

それを聞いて渡邊さんは、「或いはそうかもしれないと思ったが、仮に世間一般が不誠意であり、不正直であるからといって、自分も不誠意・不正直であっても良いという理由が成り立つだろうか。むしろ私は、最後の一人になるも正しいと信じる道を行かなくてはならぬものだと確信した」と言われています。

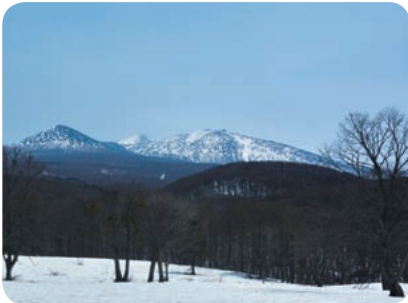
私たちが渡邊さんのような気概を持たねばならぬと思います。誰が何と言おうと三徳、殊に堪忍なのです。



舍利弗の過ち

仏遺教経というお経があります。その中に、堪忍の大切さと怒ることの恐ろしさが説かれています。

「若し恚心を縦にすれば、則ち自ら道を妨げ、功德の利を失す。忍の徳為ること、持戒苦行も及ぶ能わざる所なり。能く忍を行ずる者は、乃ち名づけて有力の大人と為す可し。若し其れ悪罵の毒を歡喜し忍受して、甘露を飲むが如くすること能わざる者は、入道智慧の人と名づけず。所以は何となれば、瞋恚の害は則ち諸の善法を破り、好名聞を壞る。今世後世、人見んこと憚らず。当に知るべし、瞋心は猛火よりも甚だし。常に當に防護して入ること得しむること無かるべし。功德を劫むる賊は瞋



害に過ぎたるは無し」

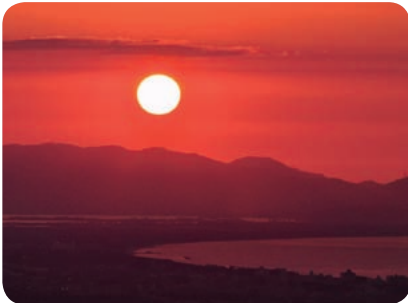
もし、心に怒りがみだりに生ずるようなことがあると、
仏道を修行する妨げになるばかりか、今までの修行で積
み重ねてきた功德もいっぺんに失ってしまふ。それであ
るから、どのような場合にも忍辱を貫くという徳は、持
戒や苦行も及ばないほど貴いのである。守り難い忍辱を
守ることのできる者こそ、本当に力のある立派な人間と
いってよろしい。もしどのようにも悪口を言われ、口汚く
ののしられようとも、その毒舌を、自己を鍛える絶好の
たまものであると考えて、甘露を飲むような思いで喜ん
で受けとめるようであればならぬ。そこまで修行がで
きていない者は、仏道に入って智慧を磨くべき出家者と
は名づけられない。なぜかと言えば、一度怒りを発する



と、今まで修めてきたいろいろな功徳をすべて空しく破り去り、これまで尊敬していた人も尊敬しなくなつて、悪名が知れわたり、二度と再び喜んで会おうと思ふ人はいなくなるであらう。それであるから、怒りは猛火が世間を焼き尽くすよりも恐ろしいと知るべきであつて、怒りの生じるすきのないように常に心を防護する必要がある。このように、あらゆる功徳を奪い去る賊は怒りに過ぎるものはない。

釈尊の十大弟子の一人・舍利弗が過去世において菩薩としての修行をしていた時に、怒りを発したために長い間の修行の功徳をなくしてしまつたという話が『大智度論』にあります。

舍利弗が一生懸命に布施の修行をしていた時のことで



す。乞眼婆羅門がやってきて、「お前の肉眼を布施してくれ」と言いました。舍利弗はそれに対して「私の肉眼をお前にやっても、何の役にも立つまい。なぜそんなものを求めるのか私にはわからない。もし、その他のものならば、お金でも品物でも何でも布施しよう」と答えましたが、乞眼婆羅門は「金品は何も要らない。ただ、お前の肉眼が欲しいのだ。お前が本当に布施を実行しているのならば、肉眼であっても布施すべきではないか」と言って聞き入れません。

そこで舍利弗は、一眼をえぐり出してその婆羅門に与えました。すると婆羅門は喜ぶと思いきや、血だらけの眼を鼻に当ててその臭いをかぎ、「こんな臭いものは要らん」と言って地面にたたきつけ、足で踏みつぶしてし



まいりました。

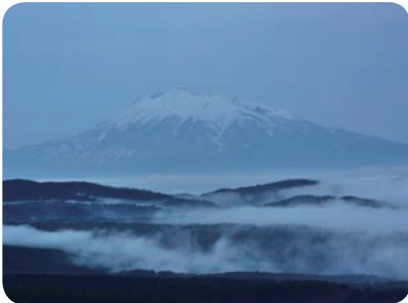
さすがに修行を積んだはずの舍利弗もここでカッと怒りを発してしまったのです。その途端に、六十劫という気が遠くなる程の長い間、修行して積み重ねた功德がいつぺんに消し飛んでしまって、菩薩から小乗という低い位に落ちてしまいました。

これはもちろん一つの寓話ですが、それほど堪忍の修行はむずかしいということなのです。

怒り

にちれんしょうにん
日蓮聖人の御遺文「崇峻天皇御書」に、

「日本始まりて国王二人、人に殺され給う。其の一人は



崇峻天皇なり。此の王は欽明天皇の御太子、聖徳太子の伯父なり」とあります。これは、国王（天皇）のようない方でも怒ってばかりいたら殺されてしまう、というお話です。

崇峻天皇という方は、天皇でありながら蘇我馬子がすべての実権を握っていたので何も思い通りにならず、絶えずイライラしていました。ある時、甥の聖徳太子を呼んで「私のこれからの運勢を見てくれないか」と言われました。しかし聖徳太子は断ります。その後も断り続けましたがついに断りきれずに卜占し「陛下は人に殺される相があります」と答えました。すると天皇は怒って「何の根拠があってそんなことを言うのだ」と言われました。それに対して太子は「陛下は御眼に赤い筋が通っ



ております。それは人から怨まれる相です」と申し上げました。天皇は「では、どうすればその難を避けることができるのか」と尋ねられます。そこで太子は「仏法に忍辱波羅蜜（堪忍）」という教えがあります。これを守っていただければ難を避けることができます」と、仏道による修養を勧めました。それを聞いて天皇は怒った顔で「わかった。怒らないようにしましょう」と言われました。

それからしばらく堪忍を守っておられたのですが、天皇になって五年目の冬、東北から猪が献上されました。その猪を見て、何を思われたか天皇自ら刀を抜き、猪の目玉を突き刺し「いつかあの憎い奴を同じようにしてやりたい」と口走ったのです。そのことを聞いた蘇我馬子は自分のことだと思い、殺される前に殺さなければ



と、天皇を騙して誘い出し、暗殺してしまつたのです。

その日のうちに崇峻天皇の遺体は、倉梯丘陵に葬られました。殯宮と呼ばれる葬礼の儀がなかつたのは、この崇峻天皇だけだそうです。

日蓮聖人は言われます。

「たとえ王位にいる身であっても、思うことをたやすく言えば、このような目にあうのだ。孔子は、九度思つて一度口を開いたという。短気をおさえ、注意深く、粘り強く生き抜き、法華経の修行に励む心掛けを持たねばならない。教主釈尊が世に出られた本懐は人の振る舞いを教えることであつたのである」

日常の中の堪忍、今日一日と思つての堪忍、皆さんお互いに頑張りましょう。



顕修院日達上人の御祥月命日法要が執り行われます。
 法音寺本山では12月17日(土)、午後1時30分より
 講日に併せて法要が厳修されます。
 日達上人からご教示いただいた
 お言葉を思い起こしましょう。
 皆さまのご参詣をお待ちしております。

◆今月の山首上人さまご親修日程

| | | | |
|------|-----------|------|-----------|
| 西春支院 | 12月2日(金) | 明川支院 | 12月3日(土) |
| 田川支院 | 12月10日(土) | 福岡支院 | 12月11日(日) |
| 一宮支院 | 12月15日(木) | 三原支院 | 12月18日(日) |
| 高槻支院 | 12月21日(水) | | |

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

| 支院名 | 日達上人御祥月法要 | 住所 | 電話番号 | 毎月の講話日 |
|--------|-----------|-----------------|----------------|--------------------|
| 大乘山泰明寺 | 12月5日(月) | 名古屋市中村区名駅2-37-3 | ☎(052)581-2069 | 5日・20日 |
| 開基堂 | | 江南市寄木町天道18 | ☎(0587)53-5436 | 10日 |
| 東京支院 | 12月15日(木) | 東京都練馬区谷原2-6-37 | ☎(03)3904-1251 | 第1日曜日。15日。第4土曜日 |
| 山形布教所 | 12月10日(土) | 山形市長町2-4-6 | ☎(023)681-0770 | 10日 |
| 静岡支院 | 12月2日(金) | 磐田市城之崎4-7-3 | ☎(0538)32-6625 | 2日・12日・22日 |
| 豊川支院 | 12月4日(日) | 豊川市中野川町1-26-3 | ☎(0533)86-4704 | 4日・20日 |
| 安城支院 | 12月18日(日) | 安城市新田町小山31-25 | ☎(0566)76-2504 | 第1、又は第2日曜日。18日・28日 |
| 明川支院 | 12月11日(日) | 豊田市明川町堂ノ脇1-2 | ☎(0565)67-2231 | 11日。第4土曜日 |
| 佐屋支院 | 12月11日(日) | 愛西市大井町浦田面296 | ☎(0567)32-1825 | 4日。第2日曜日。24日 |
| 一宮支院 | 12月15日(木) | 一宮市大江1-7-4 | ☎(0586)72-7208 | 5日・15日・25日 |
| 西春支院 | 12月2日(金) | 北名古屋市九之坪東ノ川20 | ☎(0568)22-5813 | 2日・12日・22日 |
| 岐阜支院 | 12月14日(水) | 岐阜市切通7-15-22 | ☎(058)245-2939 | 4日・14日・24日 |
| 笠松布教所 | 12月12日(月) | 岐阜県羽島郡笠松町八幡町23 | ☎(058)388-2740 | 12日 |
| 大垣支院 | 12月1日(木) | 大垣市宝和町5 | ☎(0584)78-4854 | 1日・11日・21日 |
| 関支院 | 12月13日(火) | 関市西福野町2-15-11 | ☎(0575)22-0776 | 3日・13日・23日 |
| 平賀支院 | 12月15日(木) | 関市市平賀2-13-2 | ☎(0575)23-3771 | 5日・15日・25日 |
| 郡上八幡支院 | 12月8日(木) | 郡上市八幡町小野7-2-1-3 | ☎(0575)65-3933 | 8日・22日 |
| 四日市支院 | 12月13日(火) | 四日市市赤堀2-4-7 | ☎(059)352-3633 | 3日・13日・22日 |
| 上野支院 | 12月1日(木) | 伊賀市上野向島町3-4-7-5 | ☎(0595)21-0127 | 1日・11日・21日 |

| | | | | |
|-------|-----------|-------------------|----------------|-----------------|
| 京都支院 | 12月9日(金) | 京都市上京区北横町360 | ☎(075)231-3437 | 1日・9日・20日 |
| 高槻支院 | 12月21日(水) | 高槻市天神町1-9-2 | ☎(072)685-1003 | 第1日曜日。11日・21日 |
| 大阪支院 | 12月11日(日) | 大阪市此花区西九条3-4-41 | ☎(06)6465-5051 | 第2日曜日。23日 |
| 福井布教所 | 12月10日(土) | あわら市春宮3-28-2 | ☎(0776)73-5234 | 第3土曜日 |
| 和泉支院 | 12月14日(水) | 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404 | ☎(072)466-3112 | 第1日曜日。14日・22日 |
| 神戸支院 | 12月10日(土) | 神戸市兵庫区五宮19-17 | ☎(078)360-4884 | 第2土曜日。21日 |
| 淡路支院 | 12月5日(月) | 南あわじ市神代国衙910 | ☎(0799)42-0175 | 5日・15日・25日 |
| 岡山支院 | 12月4日(日) | 岡山市南区若葉町1-16 | ☎(086)262-0818 | 第1日曜日。7日・23日 |
| 高知布教所 | 12月12日(月) | 高知市上町5-5-39 | ☎(088)823-1983 | 12日 |
| 福山支院 | 12月18日(日) | 福山市西町3-19-5 | ☎(084)921-3078 | 1日。第3日曜日 |
| 三原支院 | 12月18日(日) | 三原市古浜3-3-17 | ☎(0848)62-5087 | 第2土曜日。第4日曜日 |
| 安芸津支院 | 12月3日(土) | 東広島市安芸津町三津3765-3 | ☎(0846)45-4012 | 第1土曜日。第4日曜日 |
| 坂支院 | 12月11日(日) | 広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 | ☎(082)885-1064 | 第1、又は、第2日曜日 |
| 福岡支院 | 12月11日(日) | 福岡市早良区城西2-11-37 | ☎(092)821-7975 | 第1日曜日。第3日曜日。15日 |
| 壱岐布教所 | 12月13日(火) | 壱岐市石田町池田東触1-1-2 | ☎(0920)44-5445 | 13日・23日 |
| 筑後布教所 | 福岡支院にて | 筑後市大字西牟田5954-1 | ☎(0942)53-7273 | 第2日曜日。第4日曜日 |
| 天草布教所 | 12月1日(木) | 上天草市大矢野町維和1502-1 | ☎(0964)58-0742 | 1日 |
| 田川支院 | 12月10日(土) | 田川市春日町7-30 | ☎(0947)42-1819 | 第2日曜日。第4日曜日 |
| 名古屋地区 | 12月17日(土) | 名古屋市昭和区駒方町3-3 | ☎(052)831-7135 | 7日・17日・27日 |
| 瀬戸布教所 | 12月9日(金) | 瀬戸市東本町2-20 | ☎(0561)85-6860 | 9日・19日・29日 |
| 亀岡布教所 | 12月12日(月) | 亀岡市篠町篠牧田73-1 | ☎(0771)25-7807 | 第2月曜日。第4日曜日 |

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

特別企画

聖の教え

《日蓮聖人の事の二》

(十二)

◇日蓮が弟子等は臆病にては叶うべからず。

教行證御書 一一三三頁

◇總じて日蓮が弟子と云つて法華經を修行せん人人は、日蓮が如くにし候え。さだにも候わば、釋迦・多寶・十方の分身・十羅刹も御守り候へし。

四菩薩造立鈔 一七七五頁

◇現在の大難を思い續くるにも涙、未來の成佛を思うて喜ぶにも涙せきあえず。鳥と蟲とは鳴けども涙落ちず、日蓮は泣かねども涙隙なし。此の涙世間の事にはあらず、但偏に法華經の故なり。若し然らば甘露の涙とも云いつべし。涅槃經には父母・兄弟・妻子・眷屬に別れて流す所の涙は、四大海の水よりも多しと雖も、佛法の爲には一滴をも溢さずと見えたり。

諸法實相鈔 九七一頁

日本第一の法華經の行者・日蓮聖人

◆安立大法尼

妙法の偉力（この経（法華經）を説の如く実行するなれば、自己の思うことは何でも思うようになり、自由自在のことができます。たとえば、災難の来ない前に災難の来ることを知ることのでき、また、それを防いで小難とすることや、無難とすることもできます。商人なれば、商売を繁盛させることも容易にできるのであります。

世の中には、せっかく築き上げた巨万の財産も、その子孫が見る影もなく使い尽くしてしまふ例は、たくさんありますが、妙法は、実行次第でこのような不肖な子孫もできないで、未代までも栄ゆる、徳の深い子孫を得ることもできます。いわゆる長生の術とは、この経の実行者に限りでき得るのです。

斯くの如く万事に自由自在になれば、常に面白く、満足して、極楽の境界で暮らすことができるのであります。

このように申せば、あるいは言う人もあるでしょう。「それほど自由自在なことのできる妙

法なれば、聖者日蓮聖人は何故に、辻説法の時聴衆に瓦石を投げつけられたか。あるいは、佐渡に流罪せられたか。また松葉ヶ谷ご庵室が焼き打ちに遭い、その上、龍の口にて断頭の座に据えられたか」と。皆さんは何とお思いになりますか。

日蓮聖人は、「法華経には『如来の現在すら猶お怨嫉多し、況や滅度の後をや。』又云く、『一切世間怨多くして信じ難し。』」

涅槃経に云く、『横に死殃に罹り、呵嘖・罵辱・鞭杖・閉繫・飢餓・困苦、是の如き等の現世の軽報を受けて地獄に墮ちず』等云云。般泥洹経に云く、『衣服不足にして飲食麤疎なり、財を求むるに利あらず、貧賤の家及び邪見の家に生れ、或は王難及び餘の種種の人間の苦報に遭う。現世に軽く受くるは、これ護法の功德力に由るが故なり』等云云。文の心は、我等過去に正法を行じける者に寇を為してありけるが、今却りて信受すれば、過去に人を障える罪にて未来に大地獄に墮つべきが、今生に正法を行ずる功德強盛なれば、未来の大苦を招き越して小苦に値うなり』（兄弟鈔）と申されております。

聖人は、末法と申して法華経を實行せなければならぬという時期に出世せられて、「たくさんさんの経文の中、この経が一番勝れたものである。諸経中の王である。仏に成る法は、唯これ

一つのみである」ということを知って、この経を説かれたのであります。経文の如くでありますれば、末法に出て経王・法華経を教えられた聖人は、上行菩薩の再誕であります。

経に曰く、「上行は諸仏に護念を受け」と。

然るに、次から次と災難の来るのは、「その過去に法華経に背いた罪があるために、その報いとして地獄界に墮つべき者なるが、護法の功德力にて、ごく小難で受けるのだ、小難で受けて、未来に地獄に墮つべき罪を消滅するのである」と、喜んでおられるのであります。

かの、松葉ヶ谷ご庵室焼き打ちの時には、白き毛の猿に手を引かれ、山に逃れて危難を逃れ給い、龍の口斬首の座にては、種々なる不思議な出来事によりて、ついに名刀蛇洞丸は三つに折れたとのことであります。法華経に「刀尋段段壞」とあることを実証されたのであります、皆これ、真実なる経文の明らかなることを証されたのであります。

また、佐渡に流罪の時は、雪に埋れた塚原三味堂に置き去られて寒風と雪と飢に責められ、常人なれば凍死すべきに、その時、遠藤為盛夫婦が人知れず食を運びしことども、一つとして諸仏の護念と見るのほかはありません。経に「清信士女を遣わして、法師を供養せしめ——変化の人を遣わして、之が為に衛護と作さん」とあるは、正にこれであります。

どんなに偉い人でも、因果の理法を離れることはできません。どなたでも、過去に作った種まきの報いは、いつかはきつと受けねばなりません。それが妙法の実行をいたしますと、ごく小難で逃れることができます。

始祖・御法話集 四三頁

◆宗玄大徳

未来永遠に続く信仰を 日蓮聖人が、かの一代の巨難とも称すべき龍の口の法難を免れ給いて後に「世間の人々は、法華経の文字は読めども身に読まず、日蓮一人法華経を身に読めり…」と申されました。

いかに尊い仏法も、これを正しく読まざればその勝劣も明らかならずして仏教徒たる価値もなく、却って仏教を信ずる如く見えて教主釈尊のご恩も知らず、あるいは禅宗だの念仏だのと方便の仏を信ずるが如きは、教主を侮り奉ることに外ならぬのであります。

いやしくも仏教徒たるものは、仏の出世の本懐を思い起こしてその教法を遵奉し、説の如く身に行なわなくてはその価値を失うのみか、仏法そのものを傷つけることとなって、仏の重恩に対し奉り、もったいなくも怨みを以って報い、重罪を作ることとなるのであります。法華経

に「仏智を除いて五波羅蜜を行ぜし功德と、仏の寿命の長遠なることを聞いて悟った功德を比較すれば、寿命の長遠なることを聞いた功德は五波羅蜜を行ぜし功德よりもはるかに優れている」とあります。

寿命の長遠を知るということは即ち仏智のことです。仏の寿命は過去に於ては百千萬億阿僧祇劫であり、未来もまた辺際極まりなきものであります。その間ずっと、常に衆生を教化して正覚を得せしめ、仏道を成ぜしめたいという思し召しは止まず、絶ゆることなく衆生済度をなされるのであります。

日蓮聖人は、当事鎌倉の良観上人が橋梁を修理し、道路を作り、慈善事業をせられても、「仏の心を知らずしての行ないは、その功德が少ないのみか、小善を行なって、却って仏の心を殺す所作となるから、仏道に対しては大罪人となる」と申されたことも了解できることと思えます。皆さまは仏教徒でありましたなれば、どこまでも教主釈尊の教訓を遵奉して、仏の心に違背せないように日常努むるこそ、自他に対する大切なことだと思えますから、大いに悟って頂きたいと思えます。

二祖・村上齋先生 九七頁

◆御開山上人

晩年の日蓮大聖人は胃腸がお悪かったようでありました。実は佐渡へご流罪になられた時から
お悪いんです。おそらくあの当時、寒中に佐渡へ流されて生きておった者はなかつたでしょう
ね。鎌倉幕府の役人たちは大聖人を、自ら刀を使わず殺そうと思つて、塚原三味堂というお墓
へ捨て置かれたのです。お墓なら死んでもそのままでもいいと思つたわけでしょうかね。

塚原三味堂という所は、今は大きな杉の木などが生えておりますが、昔は風の吹きっさらし
の原っぱであつたようであります。その跡は今、石垣のようになっておりますけれども、当時
は何もなくて、弔い堂が一つあつただけなんです。その弔い堂というのは、畳があつて、障子
があつてというように、座敷が作つてあるわけではありません。家の形があればいいというこ
とで作られたものなのですが、そこにお入りになつただけで、まるで石碑と一緒になれとい
うことと同じであつたらうと思ひます。しかも佐渡の冬は非常に雪が多くて、軒は六尺、雪は
一丈という位に深い所であります。

そういう時期に大聖人は流されたわけでありました。

敷物など何も無いその弔い堂で、おまけに食べ物もなく、「雪を含んで食となし」とありま

すから、ごはんのかわりに雪を握って食べられたかも知れません。また、寒いというのも家中にいて寒いのはわけが違います。今日から身延山の修行がはじまりまして、もうそろそろ行堂へ入られる時間だと思えますが、今の修行というのは、せめて百日間、大聖人のいろいろご苦労をなさったことを体験してみようということであるわけです。

初めて入った人が一番病気になるのが、お腹が冷えて腹痛を起こすことです。冬はやはり、お腹を冷やさないようにした方がよいが、そういうことに経験がありませんと、ひどくお腹を悪くします。そしてそのうちに下痢を起したりもします。初めて入った人に「腹には必ず布を巻くように」ということを教えるのですが、何せ一日に七回も水をかぶりますからね、いち面倒くさいといふので腹に巻かない人もいます。するとすぐに胃腸をこわしますから、「そういうことも行の一つだから、絶対に面倒くさいといふことを思ったらだめだよ。病気になるってしまふよ」と、必ず最初に注意します。あそこで病気と言ったら、悉く冷えからくる病気であります。

五十歳以上になりますと、水をかぶっていても、若い者はちようど火に水をかけたようなもので湯気がたくさん出ますが、私位の年になると全く体から湯気が出ませんのです。

大聖人が佐渡へご流罪になられたのは、五十歳近くでございました。何も食べる物がなくて、お腹がすくから仕方がないので「雪を含んで食となす」という状態で、しばらくの間そこに暮らされたようであります。そうした所へ阿仏房が夜中にやってきました。大聖人は念仏の敵だから、寝ている間にひと思いに殺してやろうと思ってきたのであります。

そこで大聖人は阿仏房に、念仏無間のわけと、正法である法華経に依らなければいけないということを懇々と教化されました。そして阿仏房は、後に千日尼と呼ばれた奥さんと共々、大聖人に帰依し、改宗されました。

それからというものの、阿仏房の住んでおりました所から塚原三味堂は一里程離れていまして、夜中になると背負子に弁当を乗せて持ってきたようであります。昼間は人目をはばかって持って来られるはずがありません。夜中になって食物を運ぶということも大変なことでありまして、寒い時に冷たいものばかり食べるのは大変なことですね。そういう状態でしたから胃腸病が起こるのはあたりまえだったと思います。私もこの話を知りました時、涙がこぼれて仕方がありませんでした。

御開山上人御法話集 一四五頁

日蓮聖人の実践

日蓮聖人は、

法華経の

いかに尊い

かということ

を、身と心

をもってさとられ、

この強い自覚の上に立たれて、その教えを、身を尽くし、思いを尽くして実践されました。日蓮聖人の一言一行は、ことごとく法華経の表現でなかつたことはありません。そして、法華経がどのように尊いものか、その教えを身に行なうということがどのようなことかを、ご自身で身に行なうことによつて日本にあまねく知らせ、尊い働きを持つお題目「南無妙法蓮華経」の声を、日本中に広められました。

「法華経の行者・日蓮聖人」、これほど日蓮聖人のご生涯をびったり言いあらわした言葉はありません。

法華経の行者・日蓮さまの教え

四頁

りません。

法華経の行者・日蓮さまの教え

四頁

〔特別企画・聖の教え〕について。

『聖の教え』は、御開山上人が昭和33年8月に同名の著書（現・仏教聖語の解説）を発行されておりますが、同題を使用させて頂きました。

『經典（法華三部經）及び日蓮大聖人御書と当山先師のみ教えから信仰の培養に資する妙文を撰出し、並記・編集したものです。尚、經典は『平樂寺書店版・訓訳妙法蓮華經並開結』。御書は『平樂寺書店版・昭和重修日蓮聖人遺文全集』を使用し、ともに新仮名遣いに改めました。先師の御文は、当山発行の書籍に依りましたが、言葉遣い、句読点等、改めたところはあります。

とくのはの記

病と法華経

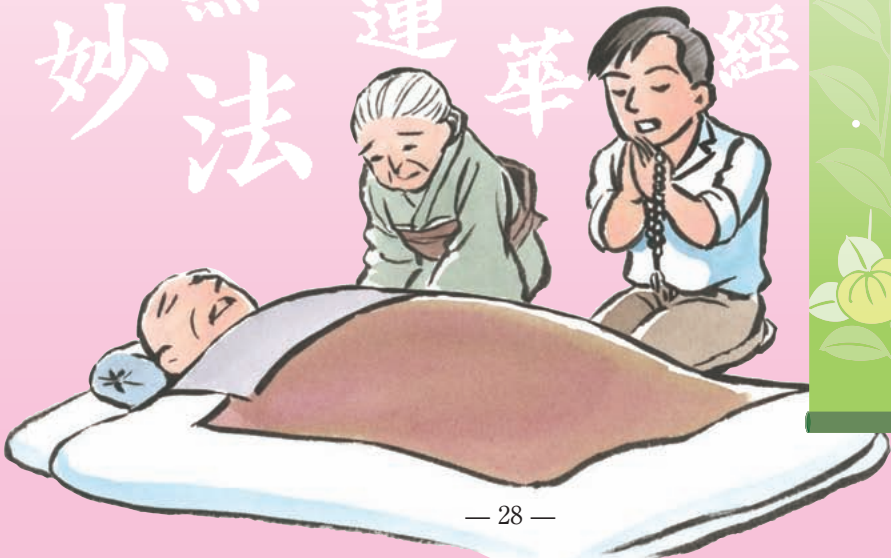
「南無妙法蓮華経は師子吼の如し。いかなる病さわりをなすべきや。鬼子母神・十羅刹女、法華経の題目を持つものを守護すべしと見えたり」
『経王殿御返事』

ある日、友人が深刻な表情で相談にやってきました。

高校生になる一人息子が難病を患って、余命2年〃と医師から宣告されたというのです。他の病院でも同じ診断結果だったそうです。

ふと脳裏によぎったのは、お寺で語り継がれているあ

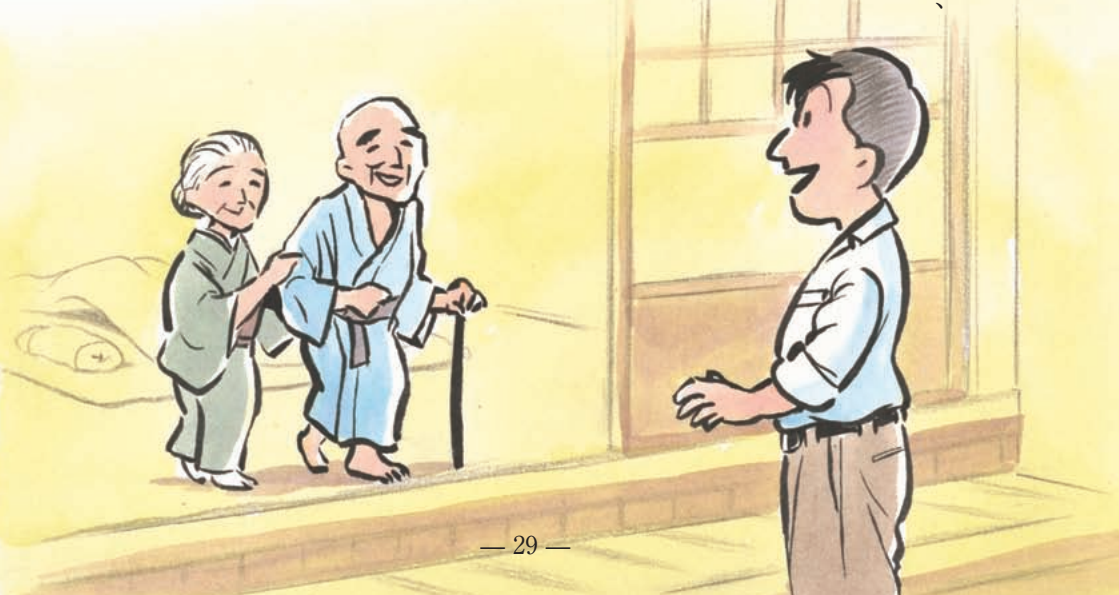
南無妙法蓮華経



るお話でした。御開山上人が仏教感化救済会を訪れた時、杉山先生から「法華経で治らぬ病はない」と言われ、実際に寝たきりのお年寄りのもとを毎日訪れてはお題目を唱え続け、とうとう歩けるまでに回復させたというお話です。

後日、友人の家族をお寺に連れて行ったのは言うまでもありません。家族が手を合わせて必死で祈る中、1時間近く読経が続きました。読経を終えたお上人は言われました。

「ご先祖をご供養されてはいかがでしょう。法音寺は『永代経供養』をお勧めしています。身近なご先祖にお徳を送り、お祈りするのです。また、ご家族の罪障消滅をお勧めします。そして、何をしているときでもお題目をご家族全員で唱えるようにしてください」



早速ご先祖のご供養をお願いし、藁をもつかむ思いで、
家族全員お題目を唱える日々が始まりました。

「阿闍世王は御年五十の二月十五日に大悪瘡身に出来せ
り、大医耆婆が力も及ばず。三月七日必ず死して無間大
城に墮つべかりき。五十余年が間の大楽一時に滅して一
生の大苦、三七日にあつまれり。定業限りありしかども
仏、法華経をかさねて演説して涅槃経となづけて大王に
あたひ給いしかば身の病忽に平愈し、心の重罪も一時に
露と消えにき」

『可延定業書』

阿闍世王はマガダ国の大王で、太子の時、提婆達多に
そののかされ、父王を殺して王位につきました。酔った
象を放ってお釈迦さまの命を奪おうしたこともありまし



た。その後、自分が犯した罪で悩み苦しむようになり、
ついには反省してお釈迦さまに帰依したと語られていま
す。その阿闍世王の体に大悪瘡ができ、医者にも見放さ
れ、50歳の時に寿命が尽きるところを、法華経の力で病
も心の重罪もたちまち消えてしまったというのです。

ひと月ほど経ったある日、その友人から電話がかかっ
てきました。なんと、息子さんの担当医が「信じられな
い。まるで病変が消えてしまった」と言ったそうです。
友人は電話口の向こうで「奇跡が起こった」と泣いてい
ました。私は、法華経の計り知れない力を見せつけられ
た思いがしました。



読者の声

御法の「ご守護をいただきます」

辻 淑子（和泉支院）

結婚して近くに住んでいる次男から電話があったのは、三男の大学受験も終わりほっとしていた矢先でした。

「5月に出産予定の第二子が、月の割には大きくないし頭も小さい。病院も個人病院から市民病院へ変わり、検診も週2回になるので、週1回は検診に付き添って、上の子の面倒を見てほしい」

実は上の子の出産の際と同様に、今回の出産にも気を引き締めて消滅供養や写経をさせていただかねばと思っていました。浪人生の三男の受験が気掛かりで、お正月明けから3月初めまでは、私自身の気持ちがいかに向いてしまっていたのです。自分が油断したことを心から反省し、諸天とお腹の子にお詫びしました。

早速、法華経要品の写経をお誓いし、始めさせていただきました。上田上人は「不安になって取り越し苦労をするよりも母胎の罪障消滅や担当の医師の先祖供養等、あなたのできることをさせてもらいなさい」とおっしゃいました。お上人の力強いご教化で私の心にあった不安は消え去り、何かドシツとお腹に座ったように感じました。

自分のできることを一生懸命させていただこうと決心し、検診に付き添ったのですが、お嫁さんはなぜか検診後もあまり診察結果を報告してくれませんでした。偶然実家のお母さんからの電話で2100gになっているらしいと聞きしました。これは諸天が、お母さんを通じて教えてくださったのだと心から

感謝し、何も言わないのではなく、私に気を遣うが故に、何も言えないでいたのかもかもしれないお嫁さんの心中をおもんばかると胸が熱くなりました。

4月末からこの連休の間に生まれそうだと医師から告げられました。何事も諸天におまかせしたらよいのだと、私は写経に取り組みました。そして、連休も過ぎた5月20日、予定日の前日までたせていただき、26528で無事出産を終えることができました。

写経は、子どもの誕生には間に合いませんでしたが、ようやく仕上げることができました。このことがあったお陰で写経をさせていただけたのだと思うと、ただただありがたく、感謝の心でいっぱいになりました。

今回のことは息子夫婦の、また私たち家族の因縁による罪障であったと思いますが、いつもお上人は「『転重軽受』―重きを転じて軽く受く―これで済ませていただけるのだと感謝して受け止めていくことが大切なんだよ」とお教えくださいます。

大難を小難にさせていただいたことは三先師、日達上人、山首上人さまのご守護のお陰と深く感謝しております。このご恩に少しでも報いることができますよう、自分のことで周りの方に喜んでいただけるよう精進してまいります。

この
好まざるさわりに苦しむ人の世も

さと
悟れば易くすごさるるなり

《二祖・宗玄大徳御詠》





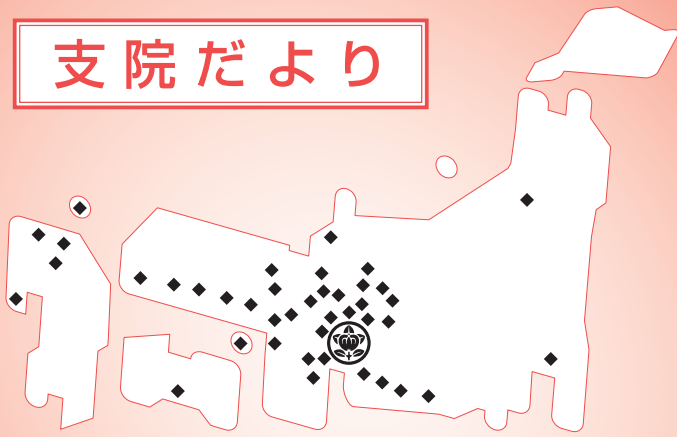
のりのもも西に東に 転法輪



『汝等如來の滅後に於て、應當に一心に受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行すべし。所在の國土に、若しは受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行することあらん。若しは經卷所住の處、若しは園の中に於ても、若しは林中に於ても、若しは樹の下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷・曠野にても、是の中に皆塔を起てて供養すべし。所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。諸佛此に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、諸佛此に於て法輪を轉じ、諸佛此に於て般涅槃したもう』

〔妙法蓮華經・如來神力品第二十一〕

支院だより



御法推進全国大会開催さる

平成28年11月3日



晩秋の風の冷たさはあるものの晴天に恵まれた11月3日、全国の支院・布教所の代表240名が集って、第34回御法推進全国大会が開催されました。

定刻10時40分、山首上人さま大導師のもと、三先師・日達上人御報恩、物故功労者追善法要が厳かに始まりました。ここ1年の間に物故された12名の功労者のご遺族も参列され、お焼香されました。

【山首上人さまご挨拶】

御法推進目標として、「自説誓言」自ら誓言を説け」を掲げました。これは、仏さまからの呼び掛けです。

「喜んで、楽しんで菩薩行をする者はいないか。喜んで、楽しみとして世の弱者を救済し、世の人々を幸福な境界に導こうとする者はいないか。自ら名乗りを上げてくれ。素直に我を捨てて、『はい、私がやります』という者はい

ないか」という呼び掛けです。

「はい」という言葉を思う時、心に浮かぶのが、偉人の中の大偉人、密林の聖者と呼ばれたアルベルト・シュヴァイツァー博士です。生涯をアフリカでの医療に捧げ、ノーベル平和賞を受賞されました。博士は、裕福な牧師の家に生まれ、外面的には幸せな生活をしていました。20歳の時、自分の幸せをあたりまえのこととして受け取ってはいけません。そのお返しとして、何か与えなくてははいけません。30歳までは学問と芸術のために生きてよいことにする。それ以降は、人類への直接奉仕に身を捧げよう」と決意し、そのためにさまざまな経験を積まれましたが、これだというものに出会えませんでした。「アフリカ医療伝道への呼び掛け」という新聞記事が博士の道を開きました。「主の呼び掛けに対して、『はい、私が参ります』と単純に応えられる男女

を、教会は必要としている」という結語に接して、30歳から医学部に入學。38歳で医師となり、アフリカへ出掛けました。博士が主の呼び掛け、神の呼び掛けに「はい」と応えられたことが始まりです。神から呼ばれることを、英語ではコーリング (calling) と言い、神から仕事を与えられる、神に身をゆだねるという意味にも使われます。

マイケル・シンガーという人が書かれた「サレンダー」という本があります。サレンダー (surrender) は、身をまかせる、ゆだねる」という意味です。シンガーは、ヨガと瞑想の指導者で、世捨て人のような生活をしていましたが、人生は、神は、自分に違うことを求めているのではないか。神に人生をゆだねてみよう。自分の好き嫌いを一切やめて、人から頼まれたり、頼られたりしたら、すべて引き受けてみよう」と決心しました。それを、神に身をゆだねたらどうなるかという実験と考えて30年間続けました。その結果、2000人の社員を擁するコンピ

ュータ会社の経営者になりました。さらに、こう言っています。「自分が欲したのではなく、向こうからやってきたものを受容する。受け身な生き方に思えるが、これは非常に積極的、挑戦的な生き方である。自己実現の道は、他人への奉仕によって見つけることができる」

法音寺の福祉も、社会の要請を受け容れ、引き受け手のなかった施設を開設・運営したことから始まっています。昨日、障がい者支援施設・泰山寮の改築起工式がありました。この泰山寮も、日達上人が、愛知県からの要請に「いいですよ」と応えられて誕生しました。知的障がい者施設・小原学園・小原寮も、杉田直樹博士が個人的に運営しておられた八事少年寮を、御開山上人が「いいですよ」と引き受けられたものです。神・仏の呼び掛けに、いつも「はい」ということは、積極的な大事な生き方であります。自説誓言も、むずかしく考えることはありません。人から頼まれたら、頼られたら、「は

い」と言って応じていくこと、これが自説誓言であります。皆さまの日々のご精進を期待いたします。

教務・広報・青少年育成の各専門委員会と災害支援部会の事業発表、日本福祉大学、昭徳会のご挨拶にあたって、それぞれの活動を紹介するスライドショーが上映されました。

◎専門委員会 事業報告・事業計画

【教務委員会】

◇事業計画

- ・浄心道場の開催 信教師の育成
- ・信教師セミナーの開催

- ・信教師の研修 (信教師会と共催)
- ・第35回御法推進全国大会の開催

- ・私の誓願・わたしのおちかひの推進

- 大人の方 導く喜びを味わおう
- 子どもさん 家の中でのお手伝い

- ・御報恩納経

- ・申込数 74万5600巻

- ・欲令衆 66万4190巻

- 宝塔偈 8万1410巻

- ・納経数 65万6824巻
- ・納経堂収蔵数 64万0411巻
- ・納経100万巻達成と、三徳開教10年・日達上人第7回忌に向けての僧俗一体の精進が訴えられました。

【広報委員会】

- ・月刊・『法音』の発行

「法音は、山首上人さまからの贈り物」との考えを軸に発行。誌面も一新

- ・ポスター作製
- ・フェイスブックの開設
- ・ホームページの一新
- （スマートフォンでの閲覧機能も付加）

【青少年育成委員会】

（事業計画）

目標

- ◇三徳開教110年（平成30年）に向け、法音寺内外の青年層への法音寺三徳の広宣流布の働きかけ

- ◇子ども会・青年会の活動の活性化

活動

- ・育成合同会議

- ・第47回 青少年育成道場

- ・御開山会奉仕

- ・青少年育成キャンプ

- ・育成合同研修会

- ・「全山一斉清掃奉仕の日」の実施

- ・介護体験学習の実施

- ・地域交流推進・近隣交流会の開催

- ・青少年向け広報活動

- ・青年層による「法音寺三徳」布教活動の展開

活動の展開

活動の詳細については、支院に配布される「育成通信」・ホームページ・フェイスブックでお伝えしています。

（専門委員会の事業については、支院・布教所で配布される「御法大会パンフ」をご覧ください）

【災害支援部会】

- ◇1年間の活動報告

8回 延べ参加人数 69名

男性 58名 女性 11名

参加者の年齢 23歳から76歳

- ・定期活動

福島県南相馬市

避難指示解除に伴い、帰宅のための準備（家屋内の片づけ・庭木等の伐採・片づけ）

- ・臨時活動

常総市・熊本県西原村・岩手県岩泉町水害による家屋内外・田畑の泥土の片づけ

- ◇平成29年の活動予定

6回 1月・3月・6月・7月・

9月・11月

16歳以上の方は、どなたでもご参加いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております。

（詳細については、ホームページ、フェイスブックをご覧ください）

【日本福祉大学】

理事長・丸山悟氏より。

御法推進全国大会にお招きいただき、日頃からお世話になっている皆さまに直接お礼を申し上げる機会となりました。たことをありがたく思っております。

昭和32年4月、日本福祉大学は4年制大学としてスタートを切りました。

大学名に「福祉」、学部名に「社会福祉」と冠したのは、日本初のことです。現在「福祉」という大学名・学部名を持つ大学は、国立・公立・私立を合わせると、102校に及びます。命名された鈴木修学初代学長の先見の明には感服申し上げるばかりでございます。

創立60周年記念事業の一環として、看護学部の新設、東海キャンパスの開設と経済学部・国際福祉学部の移転が完了いたしました。来年2017年から、規模を拡大し、内容も進化した8学部・10学科の体制で、社会的潮流である「地域共生社会」に貢献する大学運営を行ってまいります。地域共生は、本校の「建学の精神」に示された「如我等無異」の教えそのものでございます。

また、法音寺・昭徳会・日本福祉大学の三者が手を携えて行っている「三人連携事業」も着々と進んでおります。その取り組みの一つとして、大阪支院の皆さまの多大なご協力を得て、

「大阪サテライトキャンパス」が支院内に開設され、さまざまな活動の場となっております。

学生を支援する「奨学金」につきましても、皆さまのご支援をいただいで充実させてまいります。今後とも大学の運営に、学生・生徒のために、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

【昭徳会】

事務局長・杉本行正氏より。

法音寺の檀信徒の皆さまには建築資金をはじめ、さまざまなご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

◇養護老人ホーム「高浜安立」の改築工事 平成29年11月竣工予定

◇障がい者支援施設「泰山寮」改築工事 平成30年1月竣工予定

平成34年、創立110周年を迎える昭徳会では、昭和50年6月の「三好学園創立10周年」式典での「命のつながり、無限の魂のつながりを見たい」という日達上人のお言葉を「福祉の魂」

として根底に置いて運営してまいります。

その一つの表れが、支院への講師派遣です。研修会等に児童・障がい・高齢の3分野の福祉のプロである職員を派遣し、お手伝いさせていただきます。施設で働いてくださる人材の採用にも、ご支援ご協力をお願いいたします。

【修養手帳・のりのね日記】

青少年育成委員会発行の「夢実現日記手帳」を発展解消し、修養手帳として発行。

一回り大きいB6版になりました。価格1000円で、限定700部。講日・法座でのメモとしてもご利用いただけます。

「一人から始まる。今日一日から始まる」を合言葉に、三徳開教110年・顕修院日達上人第7回忌に向けて、仏さまの呼び掛けに「はい」と素直に応え、自説誓言に精進することを誓って終了いたしました。

【平成29年 御法推進目標】

自説誓言（自ら誓言を説け）

実行目標 よろこびの日が来ます

法華経を持ち続けましょう

よい教えの話を聞きましょう

よいと思つたことは

すぐに実行しましょう

実行して 家族にも 友達にも

話しましょう

必ず よろこびの日が来ます

これが本当の信仰であり

仏になる道です。

（教務委員会 大庭圓昭）

災害ボランティア

岩手県下閉伊郡岩泉町

10月18日から20日の3日間、岩手県下閉伊郡岩泉町で災害支援活動をさせていただきました。

岩泉町では、今年の8月に台風10号の豪雨によって川が氾濫し、甚大な被害がありました。19名が亡くなり、住宅の被害は756戸、内723戸が全半壊とのことでした。

18日は午前8時に集合、マイクログラスで出発し、途中、休憩を取りながら北上。初日の宿泊地・盛岡には午後7時に到着しました。

19日は午前7時に出発、8時30分に

ボランティアセンターに到着。宿泊所の方がおにぎりを握ってください、
「ボランティア頑張ってください」と送り出してくださいました。

今回の作業は、床下浸水したお宅の床下の泥出しをするための準備です。泥出しは床板をすべて剥がしての作業となるため、家財道具を移動しました。タンスなどの大きな家具から食器などの小物まで、さまざまなものを母家から隣の小屋に種類ごとに仕分けしながら運びました。家主さんは80代の女性で、現在は近所の全壊家屋から避難して来られた70代の女性とお二人で生活されています。お二人ではどうすることもできず、ボランティアの力を必要

とされてきました。途中の休憩では、家主さんがジュースや栄養ドリンクなどを用意してください、活動に一層励むことができました。

活動終了後、福島県郡山市までバスで約5時間かけて移動し、午後9時に宿泊所に到着。

20日午前7時に宿泊所を出発し、午後3時、本山に無事到着しました。

以下、参加者の感想です。

「最近ではテレビでの報道もすっかりなくなりしましたが、台風10号の残した爪痕は深く、川には壊れたコンクリートなどがれきや流木などが残っているのを見ると、まだまだ復興はこれかなのだなと思いました。冷蔵庫やタ

災害支援部会

ンス、畳など重いものも多く重労働でしたが、皆で力を合わせて頑張りました。今回のお宅には一人のご婦人が身を寄せておられました。この方は今回の災害でご主人を亡くされた上に、ご自宅はとても住めない状況になってしまったそうです。プレハブの仮設住宅が行政によって用意されたようですが、『一人でいると辛いことばかり考えってしまうから、ここに居候させてもらっているの』とおっしゃっていました。『水害なんてよその地域の話だと思っていました。何代も続いた家をこんな

形で失うなんて夢にも思っていなかった』など、抱えている悲しい気持ちを持ち明けてくださいました。災害でたくさんものを失い、深く傷ついた方に接すると、私達ボランティアができるのはほんの些細なことだけなのだなと思い、無力さを痛感します」

「岩泉町には半壊となってしまった家が崩壊した橋などが今でも手を付けられずに残っていました。岩泉町では、冬が来る前に被害のあった全世帯の床下の泥出しをしまおうという運動をしております、早急に活動できるボランテ

ィアが必要とされています。現地に行くことでまだまだボランティアの力を必要とされている方が大勢おられることがわかりました。未だに毎日不安に過ごしている方が大勢いると思うと、とても心が痛みました。町の被害の状況や現地の皆さんのお気持ちを考えると、私達にできることは本当に些細なことなかもしれません。しかし、私達の活動が小さなことでも、それが笑顔のきっかけとなればとてもうれしいことです」

(災害支援部会 前原誠伸)

岐阜支院Ⅱ佐渡・日蓮聖人霊跡団参

どっぷりとご生涯にふれた旅

10月8日から2泊3日の日程で、44名が佐渡の日蓮聖人霊跡参拝の旅に出ました。

午前6時30分、支院に集合。ご宝前にて道中安全・災難消滅のお勤めをした後、午前7時、前原上人・お庫裡さ

まとともに大型観光バスにて出発しました。バスの中では日蓮聖人の浪曲を聞き、身も心もどっぷりと日蓮聖人の佐渡でのご生涯にふれる旅が始まりました。

上越で高速を下り、バスごとカーフ

エリーに乗船。

甲板に出て大海原の水平線を見ると、日蓮聖人が荒海を小さな舟で渡られたご苦難が偲ばれました。

小木港に到着し、再びバスに乗って相川の宿泊先「ホテル大佐渡」へ。窓辺から見る佐渡の海は雄大で波がきらめいていました。

夕食は海の幸でした。おいしくいただきますながら、翌日の霊跡参拝に心を馳



岐阜支院、佐渡・日蓮聖人靈跡にて合掌

せました。

2日目は午前8時30分にホテルを出発し、聖人が『観心本尊鈔』の撰述に硯石の水として用いられたという御井戸庵を訪れました。

次に、聖人が佐渡の松ヶ崎に着かれ、小倉峠を越えて塚原に向かわれる途中、休息された場所に向かいます。聖人は梅の木を杖にしてこられました。この杖を地面にさしておいたところ芽が出て、現在の大きな梅の木に成長したと伝えられています。

三番目は塚原三昧堂跡の根本寺へ。ここで聖人は開目抄を撰述されました。御開帳いただいたお祖師さまのお顔は厳しく、眼光鋭く見えました。

四番目は日蓮聖人銅像です。平成12年に建立されたこの像は台座を含めると26メートルの高さ。台座の「開目」の文字は日達上人のいとこにあたられる浅井圓道上人のお手になるものだそうです。雨の中、心を込めてお像を拝しつづうちわ太鼓を鳴らしてお参りました。

五番目の本光寺は、日朗上人が聖人のもとへ赦免状を届ける途中、雪中で餓れられたのですが、助けられて聖人とお会いし、無事赦免状を届けられた所です。

六番目は阿仏房・千日尼夫妻ゆかりの妙宣寺です。県内唯一の五重の塔で知られています。

七番目は妙照寺。ここで聖人は「観心本尊鈔」を撰述され、大曼荼羅御本尊を書き表されました。ここでも御開帳をしていただきました。

八番目の実相寺は、故郷の千葉県東条郷に似ているので、聖人が亡きご父母を偲ばれたといわれる「天拝親観の靈蹟」です。

8カ所の靈跡を巡り午後5時、再び「ホテル大佐渡」に帰着しました。佐渡の湯で心地良い疲れを癒し、海に沈む夕日を拝みました。夕食には海の恵みの料理をいただき、皆さん楽しく過ごされました。

3日目はホテルを午前9時に出発し、矢島・経島に向かいました。佐渡の南

端小木港の景勝の地です。ここでは、
たらい舟に乗って楽しまれた方もいら
っしゃいました。

全行程を終え、小木港からカーフェ
リーで直江津港へ戻りました。一路バ
スは走り、午後7時30分、無事支院へ

関支院Ⅱ敬老法会・講演会

回想法で脳もいきいきしました

晴天に恵まれた10月9日、敬老法会
に併せて講演会が行われました。

愛知県みよし市の特別養護老人ホー
ム安立荘の施設長・古山昇志先生をお
招きして、講演していただきました。

演題は、回想法の認知症予防です。
「回想法とは懐かしいおもちゃや道具、
絵・写真等を使って会話をすることに
より、脳を活性化させて認知症の進行
を抑制・予防することです」

古山先生は持参されたおもちゃ（お
手玉・メンコ・おはじき・けん玉等）、
道具（古い薬箱・アイロン・コテ・五
つ玉ソロバン・黒電話・一斗升等）を

到着しました。

本日に楽しい3日間の旅を終え、皆
さんたくさんの有形無形のお土産を携
え、帰宅されました。

（通信員 三輪一女）

一つひとつ取りあげ、聴講者と会話を
されました。皆さんは、懐かしい物を
見たり手に取ったりしながら楽しくお
しゃべり。和やかな1時間はあつとい
う間に過ぎました。回想法を体験して
脳を活性化されたことと思います。

終わって吉橋顕良上人導師のもと、
高齢者の身体健全・長寿祈願の法要が
始まり、お題目の流れる中、高齢者・

奉仕者全員のご祈願をしていただきま
した。

堂内は椅子席からテーブル席になり、
料理が運ばれて食事会の準備ができま
した。全員が席に着き、山首上人さま
からの慈悲深いご祝辞が披露され、皆
さん感謝しておられました。

お楽しみのお食事は秋らしい食材で作
られた、目にも鮮やかなお料理でした。
続いて敬老会の一員でもある踊りの
先生のすばらしい舞いを3曲見せてい
ただきました。その後はカラオケやゲ
ームを楽しみ、顕良上人のご挨拶で無
事終了しました。皆さん、記念品を戴
いて笑顔で支院を後にされました。
良いお話を聞いて、脳の活性化がで
きた、大変有意義な敬老法会の一日で
した。

（通信員 幅梅子）

四日市支院Ⅱ敬老法会

会場が温かい雰囲気になりました

10月9日、支院において敬老法会が

催されました。

午前11時、祖父江上人導師のもと法要が始まりました。法要後、祖父江上人は「長生きをすると智慧が深くなります。一日一日を大切にしてお元氣にお過ごしください」と敬老のお祝いを述べられました。引き続き運営委員長より、山首上人さまのご祝辞が披露され、一同感謝いたしました。

乾杯の発声とともに祝宴が始まりました。手作りの料理はどれもおいしいと、皆さん箸が進みます。

和やかなムードの中、お待ちかねの余興が始まりました。最初はカラオケで、のど自慢の方が熱唱し会場を盛り上げ、続いては婦人会有志の方々が、色とりどりの衣装で颯爽と登場し（お庫裡さまもこの中に）、フラダンスを披露されました。笑顔としなやかな踊りにしばし南国情緒に浸ります。毎年必ず応援に来てくださる保育園の先生方は、会場を圧倒する迫力で囀り踊りや沖繩の踊りを披露してくださいました。さらに南京玉すだれで長寿の祈りを込めた新作『三重の寿集め』を演じ

られ、皆さん拍手喝采でした。

その後には、かわいい子ども達の皿回しが披露されました。むずかしい技を次々に成功させ拍手が沸き起こりました。緊張で上手くいかない場面では、「がんばれー」の声援が起こり、会場が温かい雰囲気になりました。

大トリは支院伝統の青年会による影絵です。今年の上演はお釈迦さまのお弟子「パンタカ」のお話でした。しつとりとした語りの中（お上人も声の参加です）、ただ一念の信じる心の大切さが伝わって、引き込まれていききました。

それぞれの合間には参加者全員で唱歌を歌い、終始和やかに楽しく会が進

んでいきました。

演目もすべて終わり、食事も済んだ頃、本年米寿・喜寿を迎えられた方にお上人から花束が贈られました。また参加者全員に婦人会有志の方々が編まれた、美しい配色のクッションが記念品として贈られました。

最後にはご宝前で記念撮影。皆さんいきいきとした表情でとても素敵でした。「またお会いしましょう」と声を掛け合って閉会となりました。

皆さんの笑顔に出会え、また会を無事に終えられたことを諸天善神・山首上人さまに感謝いたしました。

（通信員 服部薫 代 加藤成子）

岡山支院 敬老会

人に優しくして花を咲かせましょう

10月13日は講日に併せて70歳以上の方々をお招きして敬老会が開かれました。午前11時より梅田上人導師のもと法要が営まれました。その後、山首上

人さまからのご祝辞が披露されました。皆さま感謝の中、最高齢91歳の方と喜寿の方々に次々と美しい花束が贈られ、大変喜ばれました。

梅田上人は、『法音』10月号より『花さき山』という絵本から『人のために優しいことを一つすると、花が一輪咲く』を引用され、「敬老会の方も、できることで人に優しいことをして花を咲かせ、長生きしてください」とお話しくださいました。

青年会の方が前日から準備してください

豊川支院Ⅱ信行会

唱題中に心の声が聞こえました

10月16日午前9時より信行会が行われ、33名の参加者が座学に勤しみ、心を研磨しました。参加者は白衣を身にもとくと、キリッと口元を閉め、本堂へ向かいました。

開会の勤行は三宅上人導師のもと信教師が出仕し、全員が室前に鎮座しました。発した読経の声がそのまま木霊して身体に入り込んでくる、そんな気がいたしました。

孝祥院にて講義開始。

三宅上人はご法話で「立正安国論」

さったおでんやうどん・お弁当・飲み物等が敬老の方々の前に並び、和やかな会話の中、楽しい祝宴が始まりました。

カラオケも熱唱のうちに終わり、最後に万歳三唱し、喜びの中、帰途に就かれました。(通信員 木村彰保)

十番問答の要旨をお話してくださいました。

「この世界こそ極楽浄土なのに、自らの罪によって乱し、苦しんでいる。悪因を絶ちましよう」

岐阜支院Ⅱ敬老法会

笑顔でリフレッシュできました

10月16日、婦人会主催の敬老法会が開催されました。朝からさわやかなお天気に恵まれ、今年47名がご参加く

「続いて、前原順徳上人は三徳開教110年に向けて、「育成とは、子ども会・青年会のことだけではありません。お寺はすばらしい所だと人に伝えましょう。日蓮聖人の土籠御書に『口ばかり読めども心に読まず』とあります。ぜひ一人、仏に成れる人をお寺に導きましょう」とお話しくださいました。

読経練習では、朝夕勤行集の日蓮聖人ご遺文全項を読ませていただきました。半眼にて一点集中の唱題行では、心の声が聞こえました。

奇しくも本日の三講義すべて日蓮聖人のご遺文でした。聖人の御心にふれ、法音寺のみ教えに出会えた喜びをさらに深めることができた一日となりました。(通信員 鈴木康昭)

くださいました。

午前9時に受付開始、元気な笑顔で皆さまがお集まりです。法要が始まる



岐阜支院の敬老法会

まで2階のロビーでコーヒーが振舞われました。

10時30分、前原上人導師のもと信教師出仕で法要が厳修されました。終了後、山首上人さまのご祝辞が披露され、皆さま慈愛に満ちたお言葉に耳を傾けられ、信徒のことを常に気遣ってくださるお心に感謝されました。

前原上人より「毎日の笑顔の大切さ、支えてくださる人にありがとうの言葉を」とご話いただきました。婦人会長からは「今日一日、楽しくゆっくり過ごしてください」と挨拶が述べられました。ご宝前を背景に記念写真を撮り、研修堂へと移動しました。

会場は末広がり扇形にテーブルを配置。中央を広く取り、皆さまの顔が見渡せるように作られて、花で飾った「祝敬老法会」の看板が目に入りやすい高い所に掲げてあります。

役員の乾杯の音頭で会食が始まりました。幕の内弁当・名物の冬瓜汁・さつまいもが並びました。

お腹も満たされた頃、カラオケで自

慢の喉を披露された方に拍手喝采。スクリーンの歌詞に合わせ皆さん一緒に歌っていらっしやいました。婦人会役員の方が一人二役、半身は男性（リーゼントに背広）、もう半身は女性（巻き髪に飾りでミニスカート）の格好で楽しく振り付けて歌われ、会場は大爆笑。続いて婦人会役員による「好きになつた人」の踊りです。

その後「御開山上人の菩薩行」を全員で元気に合唱しました。

最後に前原上人から、支院功勞のお二人に花束が贈呈されました。お一人の方は20年間、支院の玄関やお部屋に花を生けられて目を楽しませてくださっております。最後に、皆さまに記念品が贈られ閉会となりました。

帰り際「楽しかったです。リフレッシュできました」と喜びの声を残して、皆さま最高の笑顔で支院を後にされました。
(通信員 三輪一女)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

張り切つて競い、大いに盛り上がりました

雲一つない秋晴れの10月16日、支院主催の敬老法会が開催されました。

午前11時より、田中上人導師のもと敬老の皆さんの長寿祈願と身体健全の法要が営まれました。

参加された皆さんは、この一年間を健康で無事に過ごせたことを感謝し、これからも三徳の実行に励むことを誓っておられました。

山内運営委員長の挨拶に続き、田中上人より「いつもありがたいと思う心を持って、毎日の生活の中で相手を喜ばせ、徳を積んでいきましょう」とお話しいただきました。続いて、山首上人さまのご祝辞が披露され、会場は温かい雰囲気になりました。

今年は長寿をお祝いして、最高齢のお二人に花束の贈呈がありました。そして全員で記念写真を撮りました。

神林副運営委員長の乾杯の音頭によ

り会食が始まりました。おいしい食事と楽しい会話で、皆さん団らんの時間を過ごされました。

演芸会第1部が始まりました。壮年会によるお馴染みの炭坑節や河内おとこ節の輪踊りを皮切りに、イントロクイズ・敬老の方による日本舞踊・運動会・手品・オカリナ演奏・数当てクイズと続きました。

運動会（玉入れ、風船綱引き）は、お庫裡さまの発案で、敬老の方全員が紅白に分かれて行いました。奉仕の皆様

名古屋地区・瀬戸布教所Ⅱ家族まつり

大きな家族になって邁進します

10月16日、第11回家族まつりが行われました。参加者は大人68名、子ども6名でした。

今年は、スーパー・グレードマジシ

さんの応援を受け、大いに盛り上がりました。

第1部の最後を飾ったのはフォークダンスでした。敬老の方も奉仕の皆さんも、一緒に輪になって楽しく踊りました。

抹茶と和菓子の休憩をはさみ、演芸第2部は「皆で歌おう懐かしの歌」です。敬老の方が希望された歌を、皆と一緒に楽しく歌いました。

最後に出席された敬老の皆さんに、記念品と手作りの毛糸の帽子、シーサ一の焼き物がプレゼントされました。参加者全員にとって感謝の日でした。

(通信員 石田成子)

ヤンズから3名の方をお招きし、子どもからお年寄りまで楽しめるいろいろな手品を見せていただきました。大きな風船ボールがパーンと割れて中から



名古屋地区・瀬戸布教所の家族まつり

たくさんさんの風船が空高く舞い上がると、思わず歓声が沸き起こりました。続いて、昨年好評だった健康体操です。「皆さん、私の顔、覚えとる？ たった一年前のことだよ」の第一声で場

内はパッと明るくなり、いつのまにか先生の話術に引きこまれていきました。ど真ん中祭りで入賞した時の素敵な衣装での踊りに大拍手。最後は参加者全員に鳴子が配られ、「サザエさん」の曲に合わせてリズムカルに鳴子を打ち鳴らしました。

昼食後は皆さん楽しみにされていた抽選会です。今回は魚つりゲームをして、自分の釣った魚の裏の番号で景品と交換しました。景品は9種類でお米・明太子・イカ・フルーツ等です。

75歳以上の敬老の方も多くいらつしやいますので、山首上人さまよりいた

郡上八幡支院 山首上人さまのご親修・大黒祭

身も心も清らかなになりました

10月22日、大黒・鬼子母尊神祭が厳修されました。午後7時45分、ご宝前には130体を超えるご神体が祀られています。ここ数年、大黒さまや鬼子母尊神さま以外もご香浴していただ

いただきましたお祝いの言葉が披露されました。また、数え年90歳の方お二人には、長寿をお祝いして花束の贈呈が行われました。

催しの最後は皆さんで大合唱です。「青い山脈」「高校三年生」など懐かしい歌を歌い、笑顔で会を終了しました。

日達上人の「瀬戸は家族です。大きな家族です」とのお言葉を思い出します。また、何事においても、先師・長江上人の教え「ありがたい」の心で精進してまいります。

(通信員 菱田照久 代 高原叔子)

祀られるようになりました。10数キロもある大きなものから数センチのもの、七福神から観音さままで色彩も豊かです。

リズムカルな木鉦と流れるようなお経のもとに法要が進められ、1年間そ

れぞれのご家庭をご守護くださったご
神体に、清らかな香と尊いお経が添え
られ、次々とご香浴がなされていきま
す。

法要後、山首上人さまは「いつも笑
顔で挨拶をすることは、人の心を動か
し、感謝の心を育む大切な行為です」

名古屋地区 身延山親睦団参旅行

親が子を思い、子が親を思う

10月22日・23日の両日、総勢123
名で、身延山奥ノ院思親閣と甲府湯村
温泉へ親睦旅行に行きました。

身延山奥ノ院思親閣では、本年が日
蓮大聖人御母妙蓮尊尼750遠忌の年
ということで、普段は拝見することの
できない妙蓮尊尼のお像が厨子よりお
出ましになり、鎮座しておられました。
御開帳を受け、その後、思親閣別当・
望月海俊僧正よりご法話をいただきました。

「この奥ノ院は育恩の祖師とも呼ばれ
ます。日蓮大聖人は身延在山の9年間、

と、人間関係をより良くする生き方を
わかりやすくご教化くださいました。

その後、参詣者は山首上人さまによ
る特別加持を受けられ、身も心も清ら
かになり帰途に就かれました。

(通信員 八代哲雄)

故郷のことを思い出されては、西谷の
ご草庵より50丁の道なき道を登られ、
はるか房州小湊のご両親や師の道善房
を追慕されました。常に親が子を思い、
子が親を思う、そのような修養をして
ください」

身延門前町で買い物をした後、湯村

大垣支院 敬老会

すばらしい音色に聞き惚れました

10月23日、第39回敬老会が行われま
した。午前10時より運営委員・奉仕者

温泉に移動。日々の疲れを癒やしまし
た。

翌日は、ぶどう園と甲州ワイン工場
見学へ行きました。昼食には信玄太鼓
の演奏を聴きながら山梨名物の「ほう
とう」をいただきました。「ほうとう
は初めて」という方も大勢いて、感動
しておられました。

最後に、山梨県土産で有名な「信玄
餅」の工場見学をしました。手作業で
梱包されている姿に大変驚きました。
バスのトランクに入りきれないほど
お土産を買い、山梨県を後にしました。
団参者一同、来る三徳開教110年
・日蓮上人第7回忌に向けて、精進す
ることをお誓いし、解散しました。
(通信員 菱田照久 代 三宅持温)

・青年会が集まり、その後、続々と招
待者の方々が笑顔でお見えになりました



大垣支院の敬老会

た。抹茶とお茶菓子の接待を受けられる間、本堂では昭和58年の敬老会のビデオテープが流され、あまりの懐かしさに招待者のみならず、奉仕者も見入っていました。

午前11時より香村上人導師のもと勤行が行われ、招待者・奉仕者一同の健康祈願をしていただきました。

勤行後、運営委員長より開会のご挨拶をいただき、香村上人からは「三本の木（元氣・陽氣・長生き）を植えて、三本の木（短氣・陰氣・病氣）を抜いてください」とのお言葉が、招待者へ贈られました。続いて山首上人さまのご祝辞が披露され、喜寿・米寿のお祝いがあり、香村上人より記念品が贈呈されました。

そして、次は「みんなで歌いましょう

う！」です。懐かしの名曲を、奉仕の方も一緒にみんなで歌いました。

程よくお腹も空いたところで研修棟へ移動してお食事会です。乾杯をして、おいしい料理に舌鼓を打ち、昔話に花が咲きました。また、食事と並行してビンゴ大会が行われ、子ども会が元氣良くゲームを進めました。

食事の後は、今回の特別企画「二胡演奏」です。二胡とは、2本の弦を間にはさんだ弓で弾く中国の民族楽器で、東洋のバイオリンとも呼ばれているそうです。そのすばらしい音色に、皆さま耳を澄まして聞き惚れました。

一服のコーヒーの後、敬老会代表の方より、奉仕の皆さまへお礼の言葉があり、敬老会は終了しました。

（通信員 姫田拓男）

亀岡布教所 山首上人さまのご親修・大黒祭

良い行いを真つすぐに続けます

前日までは雨の予報で、午前中はパラパラしておりましたが、山首上人さま

まをお迎えさせていただく頃になり、ますます雨が上がり、渋滞していた道路も

空いて妙不可思議な世界が現れました。
三先師、日達上人のご守護を妙観し、
年に一度、山首上人さまをお迎えてでき
る喜びでいっぱいになりました。

10月23日午後1時、大黒・鬼子母尊
神祭が厳修されました。ご宝前に洗米
・塩・黒豆・五穀・人参・大根・果物
・スルメなどが供えられ、莊嚴な読経
により大黒さま・鬼子母尊さまがご
香浴されました。

法要が終わり、山首上人さまより
「長生きをすることによって魂が磨か
れます。限られた年月の中で、一生懸

安城支院Ⅱ長寿会

心身ともに若返りました

定例講日の10月28日、午前10時30分
より長寿会が開催され、75歳以上の方
41名が出席されました。

皆さんが研修棟でお抹茶のご接待を
受けられた後、本堂において島田上人
導師のもと、年中安泰・身体健全・長
寿祈願の法要が執り行われました。続

命に忍耐の継続をすることが修養です」
とご教示いただきました。

またこの日、青年会・子ども会が境
内で草抜きをして「全山一斉清掃奉仕」
に参加しました。

良い行いを真つすぐに続けていくこ
とによって、周りの人々を助ける種を
まいてくださっている幸せを感じまし
た。

皆さん山首上人さまのお徳をいただ
かれて、今日一日大変な盛り上がりで
しました。
(通信員 花崎寿美)

いて、山首上人さまのご祝辞が披露さ
れました。

島田上人より「今日の長寿会に出席
できたことを喜び、感謝しましょう。
来年もお元気なお顔を見せてください」
とご挨拶をいただきました。そして、
米寿の方1名と喜寿の方2名、今年仲

間入りされた方3名に、花束と記念品
が贈呈されました。

次はお楽しみみの時間です。ご宝前に
ステージができました。昭徳会・光徳
保育園年長組さんから演技のプレゼン
ト。「よさこいソーラン」を力強く踊
って披露してくれました。また、御開
山上人がお作りになられた園歌などを
大きな声で一生懸命歌ってくれました。
そして園長先生の呼び掛けで「やきい
もじゃんけん」をしました。席に来て
くれた園児さんと一対一でじゃんけん
をして、とても盛り上がりました。

最後に園長先生、子ども達が「いつ
までもお元気でいてください」との励
ましの言葉とともに、折り紙で作った
可愛い花や鶴などの付いた「小物入れ」
を一人ひとりにプレゼント。皆さんと
てもうれしそうでした。

園児退場後は、信教師によるパネ
ルシアター「かさじぞう」が上演されま
した。皆さん童心に戻って鑑賞されま
した。

次は壮年部の太極拳の演技です。音



安城支院の長寿会

楽に合わせていろいろな型を見せてく
ださり、皆さんも一緒になって上半身

を動かして運動しました。

お上人を囲んでの記念撮影の後、研
修棟にて婦人部がご用意くださったお
いしい昼食をいただきました。

三先師・日達上人・山首上人さまの

明川支院 敬老法会

一重の喜びです

10月29日、支院恒例となった敬老法
会が行われました。午前8時30分に役
員・奉仕の方々が集合し、支院内外の
掃除が始まりました。支院旗・題目旗
等も立てられ、定刻11時より招待者・
会員皆さまの健康・長寿を祈願する法
要が行われました。

法要後、山首上人さまのご祝辞が披
露され、毛利上人から「お医者さまと
ほど良く付き合いながら、自分のでき
ることで少しづつ三徳を行って、元氣
に毎日を過ごしてください」とご法話
をいただきました。記念品授与では、
その日が誕生日の方に代表で受けてい
ただきました。「一重の喜びです。あ

お徳をいただかれた皆さんは心身とも
に若返り、一層お元氣になられて、本
堂は笑顔と明るい笑い声で幸せいっば
いになりました。

(通信員 位田久子 代 位田さち子)

りがとうございます」と本当に喜んで
いらつしゃいました。

お庫裡さまの乾杯のご発声で会食が
始まりました。その後、法音寺物語
(中)のDVDの上映です。戦争時代
を過ごされた方々も多く、村上先生の
代わりに特高警察に連れて行かれた御
開山上人のお姿には胸に迫るものがあ
ったようです。

最後に参加者の健康長寿を祈って万
歳三唱をしました。今年も無事に敬老
法会を終えられたことに感謝し、良い
徳積みができたことを喜び解散となり
ました。

(通信員 鈴木初枝)

活発な討議ができました

秋晴れの清々しい日となった10月29日、全国の各支院から107名の信教師の皆さんが集まり、第17回信教師セミナーが開催されました。

午後1時30分に開会、本堂での勤行の後、教務委員長・島田行学上人より「帝網珠の綱の中の玉が次から次へと光り輝き映し合うように、妙法三徳のみ教えを広宣流布していくことが大切なことです」とお話しいただきました。続いて河村幹事長から「2日間の経験を今後の支院の広宣流布に生かしてください」との挨拶が述べられました。その後、第二世顕修院日達上人の御報恩謝徳の唱題行をさせていただき、開山堂に移動しました。

休憩の後、緩和ケア医療専門医で身延山大学特任准教授でもある大光寺副住職・村瀬正光上人より「いのちに合掌」をテーマにご講演いただきました。

「人間の生命の問題である生命欲は、必然的に死の問題に関係してきます。望ましい死を迎えるためには臨終の用意、備えが重要です」

続いて、西春・渡辺上人はご法話にて、ご自身が死を覚悟した病気の苦しみの中で得られた功德についてお話しくださいました。

「身の回りに起こることは、喜べることも喜べないことも仏さまの大慈悲です。仏さまは必要なものを必要な時に必要なだけ与えてくださっています」

グループ討議では浄心道場の同期生が一緒になるよう組分けされたこともあり、活発な討議が行われました。テーマは「私の100万巻御報恩納経の取組み」でした。

その後、夕食をいただきながらの懇親会となりました。短い時間でしたが皆さんそれぞれ親交を温め、楽しいひとときを過ごされました。

翌日は午前6時に起床、本山朝勤に合わせて本堂でのお勤めです。朝食の後、山首上人さまよりご法話をいただきました。

「前向きな言葉・心が大事で、樂觀的に人生を見る方が良いのです」とご教化くださり、信教師の皆さんは真剣に聴講されていました。

ご法話の後、山首上人さまを中心に、本堂の大階段において参加者全員で記念撮影を行いました。

撮影後、開山堂で社会福祉法人昭徳会障がい者支援施設・泰山寮の職員の方から福祉講座（「コッコッ絶好腸」）がいつまでも元気であるために「」がありました。骨密度の低下を抑え、腸の働きを良くする取り組みについてお話しいただいた後、参加者全員で「世界に一つだけの花」の曲に合わせて、「絶好腸体操」をしました。

小休憩の後、関・吉橋上人よりお話しいただきました。

「私達は三徳の実行をしてくれる人を

一人でも作っていくという、仏さまからの使命をもって生まれてきたことを忘れてはいけません」

その後、お二人から貴重な体験談をお聞きしました。

福岡支院・吉屋さんは、海上自衛隊でのお兄さんの事故死とご両親の悲しみ・苦悩、そして日達上人のご教化によって救われたことを話されました。法音寺三徳のみ教えを一人でも多くの方々に伝えて、御恩に報いていきたいとのことでした。

次に安城支院の位田栄次さんのお話です。義母の認知症、おむつ交換のことや転倒による骨折のことなど、介護を通して得た喜びについて話されました。介護にあたって義母をほめることを続けていたら、わがままを言わなくなつて笑顔も増え、穏やかな表情になられたとのことでした。このことによつて家族のご法との縁がより深まったことが何よりうれしいとのことでした。

昼食をいただいた後は、「先師御報恩百万巻納経」の写経です。皆さん一

筆一筆に心を込めて書かれました。

小休止の後、開山堂の明かりを消して東日本大震災・熊本地震で亡くなられた物故者の追善供養として唱題行が行われました。

開山堂にて終勤、川上副幹事長の挨拶

福岡支院Ⅱ醍醐会（法華経一部八巻読誦）

是非とも体感していただきたい

10月30日、支院研修道場・西岡道場において、法華経一部八巻を丸一日かけて読誦する「醍醐会」が開催されました。第5日曜日の午前9時から午後

7時まで行われる恒例行事です。やや曇っているものの清々しい朝、大庭持念上人のもと、19名が参加されました。13歳から80歳までの老若男女が大きな声で読誦します。80歳の女性はこの日が誕生日で、手作りのケーキで皆さんからお祝いしてもらい、とても喜んでおられました。

今回で67回目を迎える醍醐会。毎回、一卷読み終えては休憩をとり、足を伸

びで本年度のセミナーが閉会しました。全国の信教師の皆さんが一堂に会する有意義な研修となりました。皆さん、感謝とともに、さらなる精進を誓っておられました。（通信員 鈴木幸男）

ばして再び次の巻に挑みますが、足の痛みを我慢してようやくすべて読み終えた瞬間は感無量です。

夕食には温かいカニ鍋をいただき、充実した一日を終えて帰路に就きました。

一生の間に何度読むだろうと思われ「法華経一部八巻」を、皆で一緒に読める境遇を本当にありがたく思います。一字一字が仏さま、6万9384体の仏さまと一緒にされる醍醐味、それが醍醐会の名の由来です。

福岡へ来られる機会がありましたら、是非とも体感していただきたいと思

ます。皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に今回参加された方の感想を一部ご紹介します。

「今回、妻、中1の孫娘（初行）と3人で参加できてうれしく思いました。お経を読み、お上人が読み聞かせてくださるご妙判に感動し、その心でお題目を唱えた充実の一日でした。この一日を三宝に、また、一緒に参加した皆さまに感謝いたします」（60代男性）

「醍醐会に参加させていただいて、一部八巻を読むのは初めてでした。読むのがむずかしいお経もありましたが、皆さんのお陰で最後まで読むことができました。また次も参加させていただきます」（13歳女性）

「以前は、休みの日は家でゆっくりしたいと思ひ、参加するのを躊躇していましたが、お寺での朝勤に参加するようになって、思いを変えることができました。参加させていただいて本当に良かったです」（60代男性）

（通信員 大庭幸雄 代 岩田治郎）

青少年育成委員会Ⅱ育成東海ブロック地域交流会

笑顔の交流ができました

10月30日、育成東海ブロック地域交流会が開基堂において開催されました。

当日は穏やかな秋晴れに恵まれ、東海地区・近隣支院・青年会・子ども会の合計40名が開基堂にそれぞれ集合し、交流会が始まりました。

高浪上人、前原祐学上人、三宅持温上人のもと勤行が行われました。続いて高浪上人より開基堂建立についてご説明いただき、「動物も人間も皆同じ大切な存在です。慈しみの心で接しましょう。そしてお父さん、お母さんの言葉を素直に聞くことが、仏さまに喜

大垣支院Ⅱ山首上人さま「親修

プラス思考で機嫌良くを心掛けます

すっかり秋の寒さを感じられる日となった11月1日、山首上人さまがお越しくださいました。

ばれることです」と子ども達にもわかりやすくご教化いただきました。

その後、めだかやお花を楽しみながら研修棟へ移動し、全員で写経をさせていただきました。

食事の後、おいしいお菓子をいただき、お庫裡さまのお見送りを受けて、開基堂を後にし、昭和日常博物館へと移動しました。

ゆったりした自由見学で、懐かしさで会話も弾み、笑顔の交流ができた楽しい一日となりました。

（通信員 服部正幸 代 松村純美）

午後6時より、参詣の皆さまに夕食が振る舞われ、近隣支院からも多くご参詣いただきました。

午後7時30分、山首上人さま大導師のもと講日の法要が厳修されました。

法要後、山首上人さまより「寿命が長い人の調査」のお話を聞かせていただきました。調査の結果、明るく前向きな考えを持つ人が長生きをしたとのこと。難病に対する治療も同様に、心

に左右されるそうです。また、どんな時でも機嫌良くすることが大切とお話しくございました。

ご法話終了後、特別加持をしていただき、身も心も清められ、ご供養と御符をいただいで、皆さま帰途に就かれました。
(通信員 姫田拓男)

豊川支院Ⅱ演芸会

心と身体が活性化されました

秋晴れの11月5日、午後1時30分より第34回演芸会が開催されました。今年「笑い」がテーマです。支院で初めてプロの落語家さんをお招きいたしました。三宅上人も「笑いにはあらゆる症状に効く免疫効果があり、人間関係さえも円滑にします」とご法話くださり、期待十分。参集の皆さん、時間とともに段々と身を乗り出し、わくわく顔の満員御礼です。

まず、安藤茂代さん（園長先生）、佑美さん（保育士）母娘がピアノ・バイオリンの合奏で「見上げてごらん夜

の星を」を披露してくださいました。ピアノとバイオリンが奏でる清く優しい祈りの音色に、小さな幸せが、星の数だけキラキラ降ってきそうでした。

続いて、母子会・青年会によるスマップの「世界で一つだけの花」の合唱です。スマップのメンバーのお面をつけて、手話を交え、元気な歌声。キムタクや草彅君になりきって、皆さんに楽しんでいただくという思いは、オンラインワン。

次は、微笑亭さん太さん（豊橋落語天狗連所属）による創作落語です。リ

オ五輪の卓球、愛ちゃんネタから、振り込めサギ防止ネタまで幅広く、抱腹絶倒。社会問題なのに子ども達も大声を上げて笑い、大人は拍手喝采。活性化された細胞はスイッチが入りっぱなしでした。

演芸会後のお楽しみは、豪華景品獲得のチャンス。恒例の三宅上人とのジャンケンポン大会に一喜一憂。

お開きは笑顔満開でお題目三唱。心と身体が活性化され、罪障への免疫効果は絶大。三徳実行をお誓いして帰途に就きました。

(通信員 鈴木康昭)





青少年育成委員会主宰・全山一斉清掃奉仕の日

10月23日

東京支院

きれいにするって気持ちがいい

スカットと気持ちの良い秋晴れのもとで「お掃除って楽しいね」と皆が実感できた一日となりました。

当日は支院近在の、夏の合宿でも利用させていただく公園のお掃除を行いました。事前に向った事務所の方のお話によると、公園は定期的にはボランティア団体が清掃に入っていてあまりゴミもないとのこと。しかしこの日は幸いに？清掃場所にはたくさん落ち葉が。思わず「やったー」と心の中で叫んでいました。参加者からも「たくさん落ち葉、やりがいあるねえ」との声が聞かれました。

今回のお掃除の目的は、公園を利用する方々に気持ちよく過ごしていただく

るようにすること。そして参加者の心に清々しさと感謝の気持ちを育むことです。

参加人数は、青年会と子ども会の13名。小さな子ども達もいたので、上手に掃除できるかしらと心配していましたが、ほうきをショベルカーのように使って落ち葉を集め、そのまま塵取りの中へ入れるのには思わず「うまい」と感心してしまいました。また、2歳の子がお兄さんの真似をして、ほうきと塵取りをもって奮闘する姿は微笑ましく、笑顔を誘っていました。

ゴミ袋の数は20袋ほどになり、参加者の「きれいになったね」「気持ちいいね」という言葉と顔には満足感があ

ふれていました。

お掃除の後、お茶とお菓子をいただいて解散となりました。

その後、青年会員は先日の奉納演芸（日蓮劇）の最終片づけのためにお寺へ戻りました。子ども会組は園内でお昼ご飯を食べ、アスレチック場で遊んだり、シャボン玉をしたりして楽しく過ごしました。

お天気に恵まれ、楽しくお掃除できたことに感謝した一日でした。

（通信員 川合和美 代 山村三記子）



心がほかほか温まっついていきました

午前9時からのお勤めの後、三宅上人から「怪我・事故のないように」とお言葉をいただき、支院周辺の草取りをする方と支院墓地に行く方に分かれて清掃が始まりました。

墓地では草取りやトイレ掃除を行いました。草取りをしている時に、「前日にお墓をきれいにして花を添え、お参りをした」という声を聞き、年配の方が地面におしりをつけて草を取っている姿を目にして、心がほかほか温まっついていくのを感じました。また家族みんなで参加したという幼稚園児も、一緒にごみ袋を持ってくれたり、草を取ったりとお手伝いをしてくれました。途中、カエルを見つけてうれしそうに追いかけている姿がとても可愛らしく、印象的でした。

ごみ袋が山のように積まれた10時半過ぎに片づけとなり、三先師・日達上

人、そして支院先師の小森上人・高法尼さらには因縁各家へのお自我偈とお題目を唱え、支院に戻りました。支院ではお庫裡さまが温かいスー

佐屋支院

〳〵近所に恩返し〳〵がテーマです

当支院では〳〵近所に恩返し〳〵をテーマに清掃場所や方法の検討が行われました。支院近隣には、老人福祉施設やデイサービスセンターがあり、普段から大変お世話になっていきます。施設周辺道路を清掃することにより、利用者の方々喜んでいただきたいと考え、場所が決定されました。

奉仕者の思いは一つになったものの、当日は本山行事と重なり一斉清掃に参加できない方もいらっしやいました。そこで、当日とその前にもう一日実施

とサンドイッチを用意してください、おいしくいただきました。

清掃に参加したことで皆さんの温かい心にふれることができ、清々しい気持ちでいっぱいになりました。とても良い経験をさせていただきました。

(通信員 鈴木康昭 代 安藤祐実)

日を設け、少しでも多くの方の志が反映できるよう計画されました。参加者は2日間で、延べ25名。無事清掃を終えることができ、施設利用者の方から感謝の言葉をいただきました。皆さん笑顔で頑張った成果は40袋を超えるゴミ袋の山となりました。

これを機に、講日するときには少しでも清掃を続けていきたいと思えます。

(通信員 岩間淑子 代 村上美奈子)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「玄関はその家の顔」です

午前9時より壮年部の方々子ども会の皆さんにより、本堂と庫裡の玄関を中心に清掃が行われました。

玄関の砂を掃き、水を掛けてブラシでこすり、扉の枠や柱の拭き掃除等、手の届きにくい場所を中心に掃除が進められました。

普段から壮年部や婦人部の方々が丁寧に掃除をされていることもあって、どこもきれいに整えられて清掃しやすく、日々のご奉仕に感謝いたしました。「玄関はその家の顔」と言われているように、玄関を見ればその家がわかるものです。参詣される皆さまを迎える大切な場所を掃除させていただいたことで、皆さん外の秋晴れとともに心もとても晴れやかになられたのではないのでしょうか。

掃除が終わると、研修棟にはお茶とお菓子が用意されていました。心地良

い疲れにお菓子の甘さが染み渡り、しばし歓談の時間となりました。

お天気にも恵まれ、皆さんと掃除す

一宮支院

空気までもおいしくなりました

午前9時より支院前の大江河畔の掃除が始まりました。市民の歩道でもあり、春は満開の桜並木で楽しませてもらっています。老いも若きも一つの輪になって清掃に集中する姿には、ともに奉仕する喜びが満ちあふれています。「無理しないでね」との気配りも、微笑ましく感じられます。

ることの気持ち良さやありがたさを再認識させていただきました。

三先師・日達上人・山首上人さまのご加護を心から感じさせていただきました。大切な時間となりました。

(通信員 位田久子 代 都野路子)

いつの間にかあたりはきれいになり、

空気までもおいしく感じられ、一面清々しく、気分爽快で終了しました。

日々の心の雑草も三徳の実行で刈り取り、心の健康を保つ大切さを日々、法尼からお聞かせいただいています。ありがたい一日で終わりました。

(通信員 今枝文字)

西春支院

なんかうれしい気分になるね

今年好天に恵まれ、本堂の掃除や

草取り、近隣や公園のゴミ収集が行わ

れました。皆さん今回もユニフォームを着用し、スポーツチームのように仲良く取り組まれています。いざゴミ収集を始めると意外とゴミが落ちておらず、日頃からコツコツと掃除されているのだなと感じました。「ゴミを見つけるとなんかうれしい気分になるね」などという会話も聞こえ、楽しく良い雰囲気で行うことがで

岐阜支院

心も洗濯いたしました

今年の一斉清掃は、「青年会・子ども会と一般信者さんとの交流を深めましょう」「堪忍をお誓いし、心の洗濯をいたしましょう」と目標を立て、支院とその周辺で清掃活動が行われました。

多くの信者さんに参加していただくために参加者募集の案内を『法音』にはさみ配布しました。前原上人、お庫裡さまをはじめ、子ども会々員、青年会々員、一般信者さん、総勢60名の方

きました。

昼食に全員でカレーを食べ、その後、講日に参加しました。

ゴミを拾い、清々しい気持ちなり、良い一日となりました。今後も子ども会・青年会からたくさんの方々が参加することを願っています。

(通信員 栗田良子 代 黒田宏明)

が参加してくださいました。外廊洗い、ガラス戸拭き、網戸洗い、空調掃除、トイレ掃除、境内草むしり、外回りのゴミ拾い、長森駅のゴミ拾い、食事の準備、記録の10班に分かれて活動が行われました。

お上人自ら受付に立ってください、参加者一同身の引き締まる思いでした。受付を済ませると、消滅供養をしてから研修堂に集合です。育成部長から今回の趣旨説明があり、運営役員から班

分け、注意事項等の説明の後、お題目を三唱して各自作業に取り掛かりました。

子ども達は、お寺の近くの長森駅のゴミ拾いへ。駅への道中は外回りのごみ拾い班と一緒に、落ちていたビン・缶・ペットボトル、プラスチックの破片などを拾っていました。駅には、「何で、こんなにたばこの吸殻が多いの？」と子ども達に言われるくらい吸殻がたくさん落ちていました。「きつと、お迎えの人を待っている間に吸ったんだね」「ごみ箱がないから捨てちゃうんだね」「捨てたらダメだよ」と話しながら拾い集めていきます。また、壊れた傘も多くみんなびっくりしていました。

青年会は、外廊洗いを信者さんで行いました。不器用ながら先輩方のご指導のもと頑張って作業をしていました。お天気に恵まれ、参加者一同、気持ちの良い汗を流しながら作業することができました。早く終わった班は手の足りない班のお手伝いをして、片づけ

もスムーズに進み、予定の午後0時30分を目途に作業を終えることができました。

終了した班から研修堂に集まり、揃ったところで、子ども達への表彰式が行われました。最後まで頑張ったことを参加者全員からほめていただき、手作りのチョコ入りメダルをかけてもらった子ども達は照れくさそうでした。

待ちに待った食事の時間です。食事班の心のこもったカレーライスは格別においしく、疲れが癒されました。また、きれいになった窓から注ぐ光もいつもより明るく優しく感じ、食後のお茶をいただいたり、おしゃべりをしたりして、楽しい時間を過ごすことができました。

最後に、青年会からハロウインのかわいい袋に入ったお菓子のプレゼントがあり、和やかな雰囲気の中、参加者一同帰路に就かれました。

事前の綿密な計画や準備などについてはお上人のご指導をいただきました。また、作業を喜んで一生懸命される先

輩信者さんの姿を身近に感じ、青年会員も多くを学ぶ会となりました。心の洗濯ができた一日に感謝いたしました。

大垣支院

ゴミ袋をひっさげて、いざ出陣！

「全山一斉清掃奉仕の日」を迎えました。この日は敬老会があり、終了後の午後3時より行われました。参加者は子ども会・青年会・敬老会奉仕者と敬老会招待者まで参加されました。

清掃場所は、支院周辺の側溝と、隣接する公園の出入口と敬老会後の支院内です。スコップ・ほうき・ゴミ拾いトング・ゴミ袋をひっさげて、いざ出陣！落ち葉が、大量に側溝に詰まっております。かき集めては上げ、かき集めては上げを繰り返しました。

子ども達は元気なもので、敬老会奉仕後でも元気に清掃をし、時折、落ち葉に隠れる虫を採取して喜ぶなど、あり余る元気を振りまいていました。他の方々も負けていません。言われるま

ました。

(通信員 三輪一女 代 河野由美)

でもなく、黙々と清掃範囲を広げていきます。

ある程度のところまで外掃除は切り上げて、支院内の後片づけと清掃に移ります。こちらはいつも通りの手馴れたもので、皆さん協力して、速やかに終了いたしました。

終了後、お上人より労いの言葉をいただきました。また、お茶とお菓子もいただいで、清々しい笑顔でお帰りになりました。
(通信員 姫田拓男)



身近なことから幸せの種まきを

今年には講日と重なったため、午後1時から清掃を行い、午後2時30分より講日のお勤めが営まれました。

清掃奉仕には母子会・青年会・壮年会・婦人会の方が参加されました。

最初にみんなでお会式の万灯の花を竹から外して片づけ、続いて子ども達と親御さんは小宝前の清掃を担当し、乾拭きで仏具の埃を取りました。そして障子や網戸の拭き掃除、高い所は大人が、低い所は子ども達が手際良く行い、ここに顔で掃除していました。

壮年会の方達は本堂の高い所にある

4個のエアコンのフィルターを外して掃除をし、天井のすす払い等をされました。

婦人会の方達はご宝前と本堂、客室の掃除をされました。いつもの掃除では行き届かない所がきれいになったところで、講日のお勤めの時間となりました。

掃除だけでなく、周りの人を喜ばせる幸せの種はいっぱいあります。身近なことからやっていきたいと思えました。
(通信員 幅梅子)

平賀支院

みんな真剣にやっつけてくれます

当日は支院にてお会式・敬老法会・

七五三祈願会が行われ、その後、全山一斉清掃奉仕として片づけのお手伝い

をしました。

法要が終了した後、子ども達と青年会、お父さん、お母さんが集まって来

られました。いつもは早めに帰る子ども達も、青年会員の「今日は全国の法音寺の信者のみんなが、いろいろな所でお手伝いをしています。みんなも一緒にやる」という気持ちで、がんばってください」という挨拶で奉仕に加わりました。

子ども達は本堂のイスを拭く担当です。イスを本堂の後方に移動させ、お父さん、お母さんに水拭きしてもらい、それを子ども達が乾拭きました。2歳の子から小学生までみんな真剣にやっつけてくれます。その間に青年会員はお会式で使用了万灯を片づけました。吊り下げられた万灯を、空いた場所に降ろして分解していきます。お父さん達も協力してくださいました。

30分ほどで作業は完了しました。大人の方達はまだ別の片づけをしています。子ども達はまだもう一度集合し、「お疲れさまでした。七夕会や夏祭りやいろいろな行事で使わせていただく自分達のお寺を、きれいにできて良かったです。また来てね」という青年会員

の言葉で解散しました。

子ども達は自分のできる範囲で一生懸命です。青年会員の顔を食い入るように見つめながら、話に聞き入っています。今回お寺に来て掃除をするとい

四日市支院

お世話になる駅や道路に感謝しよう

当日は朝早くから続々とお寺に來られ、参加人数は子ども5名、青年会5名、大人9名の総勢19名となりました。始める前にお題目三唱し、本日の目的、清掃する場所、そして注意点を青年会のお姉さんから説明していただき、開始となりました。

予定通り午前10時から正午まで、赤堀駅周辺から支院までの道中と、公園や駐輪場の掃除をしました。

道路の落ち葉を掃き集め、公園の植え込みの中のゴミ拾いをし、順調に作業が進んでいきました。みんなでする掃除は本当に楽しく、一生懸命しているうちにあっという間に時間が経って

う機会があつて、とても良かったと思います。またいろいろな行事の後にこういったことができばと思います。

(通信員 加藤寧子 代 加藤匡則)

いました。

駅周辺や公園、道路がゴミ一つ無く本当にきれいになり、みんな喜び合いながらとても清々しい気持ちになりました。また、今回は積極的に挨拶することも心掛けました。地域の高校生や家族連れの方からも「お掃除ありがとうございます」「ご苦労さまです」と言葉を掛けられて、本当にうれしく

上野支院

子ども達は照れくさそうでした

全山一斉清掃奉仕の日、青年会・子ども会は午前10時にお寺に集合。墓地

思いました。

清掃奉仕に参加した大人も子どもも「清々しい気持ちになりました」「探せば探すほどゴミがあつて驚いた」「みんなで掃除するのは楽しかった。

来年もまた参加します」「駅も公園も道路も、掃除した後は景色が違って見えました」と、喜びに満ちた感想を聞かせてくれました。

とても充実した時間を共有できたことがありがたく、普段支院に來る時いつもお世話になってる駅、道路があることに改めて感謝させていただいた清掃奉仕でした。

終わった後に皆さんで、手作りのおにぎり・味噌汁・果物をおいしくいただきました。

(通信員 服部薫 代 生川直美)

とその周辺の清掃をしました。

全員が本堂へ集合し、お題目三唱の

後、橋本上人より「掃除をすることは大きな意義があります。身体を動かすことで清々しい気持ちになり、周囲がきれいになれば自分も他の人も心が清らかになります」とご挨拶をいただきました。

その後、車で10分くらいの場所にあるお寺の墓地に、全員で向かいました。法友会・婦人会の方々にもお手伝いいただき、30名を超える奉仕者が集まりました。10月下旬です。たいして雑草もないかと思いきや、暖かいというよりむしろ暑い日が続いたせいか、随分草も伸びていました。主に草むしりと、溝掃除を行いました。

大人の方の仕事ぶりを見て、子ども達も小さな手をいっぱいに広げ、顔を真っ赤にしなが草を抜き、一人では無理な場合は協力して作業をしていました。お題目を心で唱えながら皆が一生懸命作業するお陰で、見る見るうちに一輪車いっぱいになり、代わりに周囲がきれいになります。何度もたまった草を捨てに行き、大人の方も

ら「ありがとう。みんなが頑張ってくれたのでこんなにきれいになったわ」と言われ、子ども達は照れくさそうにしていました。

お昼前に作業を終え、最後に全員で先師のお墓にお参りをしました。午前中の短い時間でしたが、子ども達も集

高槻支院

積極的に参加すると気持ちが変わる

「全山一斉清掃奉仕の日」が開催されました。今年には晴天に恵まれ、子ども4名を含む総勢22名が清掃奉仕に参加しました。

午前10時より勤行。その後、青年会会長より当日の進行内容の説明がありました。当支院では、支院周辺と向かいの西武百貨店周辺からJR高槻駅前に至る両側の歩道を4グループに分かれて清掃しました。

清掃内容は、ゴミ拾い、落ち葉拾い、草抜き、溝掃除などです。また、清掃中の努力目標として、「道ゆく人と目

中して一生懸命活動していました。檀家の方や、檀家以外もたくさん参加され、大きな功德をいただくことと、思います。三先師・日達上人、また、それぞれのご先祖さまも喜びのことと思います。

(通信員 廣出寛一 代 松山晃一)

が合ったら、笑顔で挨拶する」「国土成仏を祈願して、常にお題目を唱えながら掃除させていただく」という項目を掲げました。

そして、いよいよ皆さん法音寺の法被を着用し、掃除道具を手にして街に出て行きました。

皆さん清掃奉仕に没頭され、あつという間の1時間でした。持ち寄ったゴミを「燃えないゴミ」と「燃えるゴミ」に分別した後、玄関前で記念の集合写真撮影です。

昼食後、イエローハットの創始者・

鍵山秀三郎さんが全国で推進されている「トイレ掃除と街頭清掃」に関するDVDが上映され、改めて掃除の持つ意義や効果について学ぶことができませんでした。この後、参加された皆さんの感想を聞いてみましたので、その一部をご紹介します。

「去年は恥ずかしいという気持ちがありました。参加することが一番大事だということがわかりました」

「やらされている掃除と自分から積極的に参加する掃除とは、気持ち全然違うことに気づかされました」

「今まで家の周りを一人で掃除していましたが、今日は皆さんと一緒に掃除することができてとても楽しかったです。また来年も参加したいです」

「『こんにちは』と挨拶すると、『ご苦労さま。そこのお寺の方ですか?』と挨拶を返していただいたのが、とてもうれしかったです」

最後に、岩田上人より「掃除は下坐行にも通じます。下坐行は堪忍の基であり、掃除をさせていただくという気

持ちが大切です。今日はそれを学ぶ良い機会だったと思います」と締めくくっていただきました。

来年はもっとたくさんの方に参加い

大阪支院

宝探しをしているような目で

数日前の天気予報では雨だったお天気は、雲の中から時々青空が顔を出す絶好の清掃日和となりました。母子会・青年会・壮年会・実年会から72名の有志が参加されました。

午前11時、参加者全員が本堂に集まり、お題目三唱。今回は、支院の周辺を3つのルートに分かれて清掃を行います。この季節の歩道には、タバコの吸殻等のゴミに加えて、たくさんのお葉もありました。一人ひとりが軍手にゴミ袋を持って作業開始です。

子ども達は大人が気づきにくい目線で行動します。親御さんや世話役の方は、通行される方や自転車の迷惑にならないようにと気の休まる暇もありま

ただけることを願いながら、午後1時過ぎに散会いたしました。

(通信員 新庄達吉)

せん。無邪気な子ども達は「ここにもあった。あそこにも!」と、宝探しをしているようなキラキラとした目で、一つひとつゴミを丁寧に拾っていました。また、実年会の方々は、普段なかなか手の届かない所、一人ではできないところを丁寧に、とてもきめ細やかな清掃をされていました。

1時間30分ほどの作業でしたが、70リットル2袋と45リットル4袋、ビン・缶等、みんなが驚くほどのゴミが集められました。きつとご近所の皆さまも喜んでくださると思います。

そして、昼食をみんなでいただきました。メニューは、おにぎり・豚汁・煮鶏・ウインナー・フルーツで、壮年

会・実年会の皆さんが朝早くから準備をしてくださいました。特に豚汁はおいしいと好評で、おかわり続出となりました。

終了後、みんなで後片づけをし、午

和泉支院

気持ち良くご利用ください

今年の一斉清掃奉仕は、支院近くにあるマールビーチの掃除をすることになりました。マールビーチは関西国際空港に面し、付近の住民の散歩コースだけではなく、大勢の人達がパークビューをして楽しむ場所です。皆さんに気持ち良く利用してもらうため、お徳積みをさせていただこうと大人15名、子ども5名が参加しました。

全員で『慈悲・至誠・堪忍』のTシャツを着て、思いを一つに取り組みました。みんなでお題目三唱の後、午後1時30分に出発。

支院から歩くこと十数分、ビーチに到着し、ごみ拾いを始めました。波打

後2時からの支院講日に参加しました。一人ひとりが清々しい気持ちになり、各会のつながりも一層深まった清掃奉仕になりました。

(通信員 坂井信子 代 池内彰司)

実際にはスーパリーの袋やペットボトル、空缶など、海藻に混ざり込んでたくさん落ちていました。用意していた袋がみるみるいっぱいになり、ごみ袋の山ができました。それとともにビーチがきれいになっていきました。帰り道で

淡路支院

協力しながらできました

午前9時より11時まで、全山一斉清掃奉仕を子ども会主動で行いました。

子どもが5名と保護者が6名、全員で11名が参加しました。

今年は駐車場として使っている墓所

も煙草の吸殻やお菓子の袋を拾い集め、支院にたくさんのごみを持ち帰りしました。

約1時間の清掃奉仕の後は支院でのおやつタイムです。みんなで頑張つてご奉仕できたことに、誰もが満足そうな笑顔を浮かべ、おいしくおやつをいただきました。

こんな有意義な一日を過ごさせていただけたのも、諸天善神、山首上人さまのお陰と感謝し、お題目を三唱して解散いたしました。

参加された皆さんの心も軽く、清々しい気持ちで帰途に就かれました。

(通信員 下方恭代)

の草引きです。子どもは協力しながら落ち葉を拾い、草を引き、一生懸命に作業をしていました。続いて駐車場の草引きをし、支院の前の花壇にパンジーの花を植えて作業を終えました。そ

の後、本堂でおやつとジュースをみんなでいただき解散しました。

今日は良い天気にも恵まれ、全山一斉清掃が無事に終えることができたこと

神戸支院

特別な思いできれいにしました

午前10時、本堂に子どもから高齢の方まで16名の方が集まり、お題目三唱の後、清掃を開始しました。

今年は天気にも恵まれたこともあり、計画通り支院内と支院外の2班に分かれて行うことができました。

支院内は、日頃清掃ができない本堂の倉庫から仏具等をすべて出して、隅から隅までごみ拾いをし、見違えるほどきれいになりました。

支院外は、周辺の溝・駐車場・茶室の落ち葉拾いを中心に手際良く行い、こんなにあつたのかと思うほどごみ袋いっぱいになりました。

清掃は約2時間で終了しましたが、皆さん、自分の持ち場が終わると、

を三先師・日達上人・山首上人さまに心から感謝いたしました。

(通信員 川西広子 代 川崎万知子)

「次はどこを掃除したらいい？」とおっしゃる方もあれば、お願いする前に進んで仕事を見つけて、「もうやって

岡山支院

一体感を感じました

参加者は子ども会5名、青年会5名、護持会10名の合計20名になりました。

当日は支院の講日、敬老法会と重なったため、行事終了後に境内及び支院周辺の清掃を行うことにしました。

各行事は午後3時に終わり、3時10分に全員揃って記念撮影をしました。

最初に敬老法会が行われた本堂の片づけから行い、小さい子ども達も掃除

おいたから」と積極的に取り組んでくださる方もおられ、お寺をきれいにしようという気持ちも伝わり、ありがたい思いでいっぱいになりました。

そして参加してくださった皆さんが、笑顔で楽しそうに清掃をし、助け合っている姿を見て、清掃の大切さを改めて感じるのと同時に、深く感謝いたしました。

(通信員 石田成子 代 新庄常浩)

機を持ち一生懸命掃除をしてくださいました。本堂が片づいた後は、境内の片づけと清掃です。全員が力を合わせて手早く片づけを済ませ、参加者の一体感を感じました。

今回は、護持会の皆さんの協力もあつたお陰で、予定より30分も早く終わることができました。

(通信員 木村彰保)

揃いのTシャツで連帯感

午前9時より清掃奉仕が始まりました。当日は護持会・女性会・壮年会より24名が参加され、支院駐車場の清掃、支院周辺の溝掃除、庫裡周辺の草取り、町内のごみ拾いを行いました。

宮崎上人導師のもとお題目三唱を行い、清掃場所の班分けの後、取り掛かりました。

ごみ拾いに関しては、事前に宮崎上人と一緒に町内会長さん宅へご挨拶に伺いました。会長さんはとても喜んでくださいました。ごみ拾いは2人1組で行い、たばこの吸殻・紙くず・空き缶などを拾います。日頃町内の方の掃除が行き届いているようで、予想より少ないごみの量でした。

駐車場の掃除、溝掃除は男性陣1班の担当です。駐車場のくぼんだ場所への砂入れ、不要な物の片づけ、ごみ拾いと、みるみるきれいになっていきま

した。当初予定では無かった駐車場の支柱の修理も行うことができて良かったです。

庫裡周辺の草取りは、女性陣の担当です。庫裡前の植木の下、庫裡西側の通路など約1時間半の草取りで、とてもきれいになりました。

支院回りの溝掃除は男性陣2班の持ち場。小さな溝ですが、鉄板をかぶせてある所は、鉄板を取っての泥上げ作業となり、一輪車に2、3杯もの量に

三原支院

引っ越し前の楽しい作業

本日は全国一斉清掃奉仕の日です。

30名くらいの方が集まって、午前11時から奉仕作業にかかりました。当支院では新本堂への引っ越し作業の最中なので、その準備も兼ねて整理・片づ

なりました。また、草の生えている場所もあり力作業となりましたが、皆さん笑顔で作業されていました。

今回は連帯感を出そうと、本山御開山会の手伝いでいただいたTシャツを着て清掃活動を行いました。今後、支院の奉仕の時にはこのTシャツを着て奉仕をすることになりました。

うっすらと心地の良い汗のじむ中、無事時間通りの午前11時に清掃奉仕を終了することができました。今日一日だけにとどまらず、家庭で、職場で、一日一善の実行をお誓いし、皆さん笑顔の解散となりました。

(通信員 高橋満紀 代 徳永秀樹)

け作業をさせていただきます。本の仕分け、食器の片づけ、倉庫の整理、必要なものは段ボール箱に入れ、古くなって使えないものは三原市のゴミ選別に合わせて仕分けしました。昔のもの

を見ては懐かしい話に花が咲き、新しいお寺では何をどこに置こうかと、皆さん話しながら楽しく奉仕作業をされていました。

安芸津支院

広くなつたと見違えるほど

参加者は、午前9時に集合。早速、支院駐車場の植木剪定や草取りが始まりました。

朝から晩まで雨が降り続いたお陰で、草は抜きやすくなっており、作業は快適です。一人より仲間と一緒に働く方が楽しく、皆さん、効率良く仕事を進めていきました。

作業を終えると、駐車場が広くなっ

坂支院

しばらくうつとりと眺めていました

全山一斉清掃奉仕にあたり、当支院も午前9時から奉仕作業が行われました。

お昼にはカレーライスとサラダをいただきました。

充実した一日でした。

(通信員 平田真弓)

たと見間違えるほど、すっきりと仕上がりました。小休止のコーヒータイムの後、定例の写経会です。

二つの行事の参加者は『一日一言』のご教示「金平糖」のようなトゲをなくし、心を広くし、引つ掛かりはなくなったことでしょう。

(通信員 岸本輝子)

ました。掃除は宝前組と庭組に分かれて始まりました。

宝前の方は、お題目を唱えながらお道具やお位牌をお下げし、心を込めて清めた後、元の場所にそっとお戻しします。作業を繰り返してお掃除を終了すると、宝前が一段と光り輝いているように見えてきました。

さらに、窓拭きやカーテンの洗濯等へと作業が進む一方で、庭では先日、植木が剪定された際の残木が片づけられ、草取りも行われました。すっかり見違えるようにきれいになり、皆さんしばらくの間、うつとりと眺めていました。

きれいになった宝前やお庭を見ると、心もさわやかになりました。

きれいな環境は心もきれいに穏やかにしてくれます。この気持ちを忘れず、自分達の家の中もきれいに掃除していきたいと思えました。

(通信員 笹原真由美)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

皆さんエプロンや割烹着を身にまとい、軍手や草抜きの道具等も持参。準備万端の出で立ちで張りきって来られた。

「何時からですか?どこををするのですか?」

今回で2回目の全山一斉清掃奉仕の日、昨年と違い今年は当日に大黒・鬼子母尊神祭が行われました。ありがたいことに信者さん達から「掃除は何時からですか?どこををするのですか?」など、積極的な言葉が掛けられ、やる気が満ちてきました。

来られた方から順次、境内の草刈りをしていただきましたが、ちょうどその頃、山首上人さまがご来院され、一瞬にして周囲を明るい雰囲気にしてくださいました。

子ども会・青年会は大黒・鬼子母尊神祭のご祈祷後、子ども会の時間帯に本堂横の草地を清掃しました。手に手にスパーの袋を持ち、ビニール手袋をはめて草を抜いていきます。幸い地面は柔らかく、子ども達の手でも抜きやすい状態でした。それぞれに袋の中の草を見せ合って競争している姿もあ

りました。草の中にはつくしの芽が顔をのぞかせていたり、タンポポの花が咲いていたりして驚きの発見もありました。

ある家族から「おじいちゃん、お母さん、これはお花?」と、三世代での微笑ましい会話も聞かえてきました。

名古屋地区

道路も心もスッキリしました

名古屋では、本山近辺のごみ拾いを大人22名、子ども7名で行いました。午前9時30分から10時30分までの1時間でしたが、落ち葉や用水路沿いの雑草を抜きとり、11袋も集めることができました。

当日は山首上人さまのお徳のお陰で天気も良く、皆さん気持ち良く奉仕をされていました。奉仕後はアイスクリ

楽しんで清掃する気持ちをいつまでも持ち続けてほしいと思います。大人の方から「○○ちゃんのお陰できれいになったよ」と声を掛けられ、子ども達の顔も満足気でした。お徳がいただけたと思います。

そして、日頃草刈り奉仕をしておられる皆さまにも感謝したいと思います。ありがたい一日となりました。

(通信員 北川三枝子)

ームをいただき、道路も心もスッキリと、気持ちの良い一日となりました。

(通信員 菱田照久 代 荒川泰好)





南無高祖日蓮大菩薩

〓 一会式 各地で、にぎやかに、華やかに…

三原支院

良くないことも悟りの種です

10月8日、お会式が営まれました。

当日は午前10時30分より、地震・災害の因縁を消滅させていただくために、除災祈願お題目会が11時まで行なわれました。その後、万灯のお花が参加された皆さんの手できれいに飾りつけされました。万灯は外陣に吊り下げられ、ご宝前にはおみよっこが飾られています。お昼には支院で用意された中華弁当とサラダを皆さん召し上がられました。午後1時30分より田川・手嶋上人をお迎えして法要が始まり、読経が流れる中、皆さん心を込めてお焼香をされました。

法要後、森野上人より「人生は修養しなればならないと心得、愚痴や怒

りは堪忍していろいろな形でお徳を積んでください。そうでなければ人生は変わりません。笑顔を中心掛け、お題目を唱えましょう」とのご法話をいただきました。続いて、手嶋上人からは

京都支院

行住坐臥、お題目を忘れません

10月9日、三原・森野上人をお迎えしてお会式が営まれました。

日蓮大聖人は今から734年前の10月13日午前8時頃、池上本門寺にてご入滅されました。その時、池上の地には大聖人の入滅を偲んで季節外れの桜が咲いたと伝えられています。その伝

「良くないことも悟りの種にしてください。思うようになる世界だったら仏にはなれません。罪障消滅をしながらお徳を積みましょう」とご教示いただきました。

おみよっこごとく供養を手に、参詣の皆さまは笑顔で帰途に就かれました。

(通信員 平田真弓)

説に基づいて、本堂の天井から紅白の花万灯が吊るされる様子は、荘厳且つ華やかで、参詣者の目を釘づけにします。

午後2時、安藤上人導師のもと法要が始まりました。

ご宝前中央には綿帽子をお被りにな

られた大聖人。私達に微笑んでくださっているかのように見えます。読経が始まると参詣者一人ひとりが報恩感謝の念を込めてお焼香をされました。

法要後、森野上人は「すべて起こることは因縁と受け止めましょう。悪因縁を良因縁に変えるには人に喜んでいただき、ありがたいと思う心で徳を積むことが大切です」とご教示くださいました。

ご法話の後は、ぜんざいが振る舞わ

大阪支院

御法の縁をとの願いを込めてお誘いしました

10月9日、豊川・三宅上人をお迎えして、お会式並びにお札供養が営まれました。

午前9時、本堂に集まった奉仕の皆さんは、綿帽子を被られたお祖師さまのご宝前でお題目三唱。奉仕の実行目標を唱和して午後からのバザーの準備に取り掛かりました。

午前11時、古山上人導師により、お

れ、お餅とおみよっこ、ご供養の品を戴き、皆さん帰途に就かれました。

今年のお会式もお陰さまで滞りなくお勤めさせていただくことができました。三先師・日達上人のご守護と、山首上人さまのお徳の賜物と心から感謝しております。

行住坐臥、お題目を忘れずに三徳の実行に精進して参りたいと思います。

(通信員 牧野伸江)

会式の法要が厳修され、紅白の万灯が大勢の参詣の皆さんを優しく包み込むように静かに揺れる中、御報恩感謝のお焼香の列が長く続きました。

法要後、古山上人は、日蓮聖人受難の一つ「佐渡流罪」の際の奇瑞や変化の人についてお話しくださいました。

三宅上人は「家庭を極楽にするためには、怒らない、愚痴らない、求め



大阪支院のお会式の日

ない」の心でお互いの良いところを見
つけ合っていきましょう」と夫婦円満
の秘訣をご教示くださいました。

そしてお昼です。バザーの準備の整
えられた境内へご案内。今年は恒例の
関東煮・おにぎり・うどんに加えて、
中華そばも振る舞われ、たちまち長い
列ができました。模擬店にはフライド
ポテト・串揚げ、何度も試食を繰り返
した洋食焼き等々、10種類が用意され
ましたが、これもたちまち完売となり
ました。

本堂も『子ども王国』会場に早変わ
り。看板につけられた電飾のキラキラ
が目を引きまします。射的・オリンピック
卓球サーブ・棒投げ等、ユニークな名
前のゲームや福引で大盛況。お昼ご飯
の時間も延長営業です。ロビーの大人
福引き会場でも賑やかな歓声が上がっ
ています。お楽しみの中に午後3時
30分、終了となりました。

この日は、心にかけるご親族やご友
人に御法の縁をとの願いを込めてお誘
いできる機会でもあります。「お友達

が来てバザーの奉仕も参加してくれま
した」とのうれしい声もお聞きしまし
た。近隣町会の方々も招待させていた

岡山支院「山首上人さま」親修・大黒祭

笑顔を心掛けます

初秋の頃、田んぼの稲穂も頭を垂れ、
キンモクセイの甘い香りが漂います。
各地の秋祭りも盛んに行われる時期と
なりました。

10月9日、山首上人さまをお迎えし
て、お会式並びに大黒・鬼子母尊神祭
が午後2時より厳修されました。

毎年のことながら1年間ご守護して
いただいた大黒さま・鬼子母神さまが
香浴されますと、心まで清められる思
いがします。さらなるご守護を賜わ
らん」と祈願いたしました。

少憩の後、お会式と授戒会が奉行さ
れました。偉大な慈悲を持って、私
達凡夫のために教知れぬ法難に遭われ
ながら法華経の尊さをお説きくださっ
た日蓮大聖人さまのお徳を偲び、心か

だき、900名余りの皆さんに喜んで
いただいたお会式の日でした。

(通信員 坂井信子)

ら感謝のお焼香をさせていただきまし
た。併せて授戒会が行われ、当支院よ
り1名、高知布教所より3名の方が受
けられました。

法要後、梅田上人より「徳を人にあ
げられますか。自分のために回向して
ください」とご法話をいただきました。
また、山首上人さまは「笑顔は非常に
大事です。笑顔は人に好かれます。幸
せになります。平凡なことですが、続
けることによって非凡な結果が生まれ
ます」とわかりやすくご教化くださ
いました。

特別加持もしていただき、参詣の皆
さまは笑顔で支院を後にされました。

山首上人さまのお徳のお陰で、盛り
だくさんの支院行事を無事に終えるこ

とができ、改めて感謝いたしました。

(通信員 木村彰保)

田川支院Ⅱ支院先師祥月命日法要

法音寺にご縁をいただき幸せです

10月9日、お会式並びに初代主管・
初井妙随法尼の第33回忌、第二代主管
・初井妙澤法尼の祥月命日法要が手嶋
上人導師のもと厳修されました。散華
が舞い、読経が流れる中、日蓮聖人と
法尼に感謝を込めてお焼香させていた
だきました。

手嶋上人は「因縁の相對Ⅱ自分が良
くなるためには、人を良くすることで
す。親切な行いを実行することが大切
です」とお話しくださいました。続い

て谷田上人より「今のこの世界で、自
分の周りで何も良いことがないと愚痴
不足を言うのは、ありがたいことに気
がつかないだけです。幸せはありがた
さを見つけることです」とご教示いた
だきました。

日本という国に生まれ、法音寺にご
縁をいただいたことがどんなに幸せで
ありがたいことか、改めて感謝させて
いただいた一日でした。

(通信員 海野和子)

みんなで合唱、楽しい演芸会

佐屋支院Ⅱ敬老法会

ようやく秋らしくなった10月10日、
お会式並びに敬老法会が厳修されまし
た。

午前10時30分、境内にてバザーが開

始され、うどん・串カツ・白玉ぜんざ
い・飲み物・パン・ご供養・ゲームコ
ーナーが設けられています。

11時30分頃にはうどんを待つ長い列

もでき、陽光が射す好天のもと食事を
楽しみながら談笑する姿が見られまし
た。

午後1時より村上善立上人導師のも
と法要が厳修されました。大黒尊天の
前には、支院のプラントーで育てた新
稲穂が備えられています。天井には紅
白の万灯が吊るされ、華やいた本堂は
参詣者で埋め尽くされました。法要の
中で、70歳以上の方の身体健全・罪障
消滅・当病平癒の祈願がなされました。
法要後、善立上人より80数名の方へ
敬老祝いの品が渡され「命ある限り、
お題目を唱え、菩薩行に励み、仏性を
磨き、皆から敬われる人になってくだ
さい」とご教化いただきました。

続いてホールにて演芸会が催されま
した。まず女性8名による大正琴演奏
です。5月から十数回ほど支院に集ま
って練習をし、本番を迎えました。

始まりはドリフターズの「いい湯だ
なあ」。続いて「黒田節」を村上上人
が朗々と歌い、皆さまうっとり聞き
惚れていらっしやいました。そして「手

のひらを太陽に」をみんなで合唱し、「釜山港へ帰れ」、NHK朝ドラの主題歌「三百六十五日の紙飛行機」「星影のワルツ」の合唱が続き、6曲で終曲。アンコールを希望する拍手の嵐で再び幕が開き、「月の砂漠」が演奏され皆さまもいっしょに歌われました。

余韻の残る中、次は微笑亭さん太さんの落語です。当支院へは2度目のお越しで、世相を反映したお話で大笑いしました。

最後にお待ちかねのビンゴゲームです。今年の景品は、布団クリナー・マイコン炊飯ジャー・ダウンベスト・

西春支院

日蓮聖人に感謝の一香を捧げました

朝夕は肌寒くなりましたが、日中はさわやかな好天となった10月12日、お会式が行われました。

前日、奉仕の方が万灯飾りに参加し、天井より高く吊るされました。日蓮聖人がご入滅の折、時ならぬ桜花が咲い

取っ手の取れるフライパンセット・魚沼産コシヒカリ・洗濯洗剤と豪華な品が並んでいます。番号呼び上げの時の緊張、その後のどよめきが繰り返されるうちに景品がなくなり、当たらなかった人には、残念賞のごまスプーンが渡されました。

楽しかった演芸会も終わり、ご供養とおみよっこを手に、皆さま笑顔で帰途に就かれました。天候にも恵まれ、大勢の方のご奉仕により何事もなく盛大に行事を終えることができました。感謝いたしました。

(通信員 岩間淑子)

たのが由来とか。紅白と満開の花々が両側に飾られ、外陣は一層華やかさを呈しました。お祖師さまには綿帽子をお被せしました。眉間に受けた傷を庇うための綿帽子に、小松原法難の痛ましさを偲びました。

午後1時30分、赤いろうそくが灯されると、渡辺上人導師のもとお会式の法要が厳修されました。神力品がご唱和される中、参詣者は次々と焼香台に進み、日蓮大聖人に御報恩謝徳の一香を捧げました。

渡辺上人は「私達が仏になるためには病氣も困ったことも必要です。病氣や苦しいことを与えられて、仏の道に近づけると心から感謝しましょう」とご法話くださいました。続いて大垣・香村上人の、「大聖人が自分を捨てて衆生済度のため艱難辛苦を乗り越えられた」というお話に心を打たれました。六神通のパンフレットを配られ、一つひとつご説明をいただき、終わりに「人の役に立つよう大いに働いてください」と結ばれました。

茶菓のご接待を受け、しばし憩いの時間を過ごしました。お帰りにはおみよっこご供養を戴き、皆さん晴れやかな表情でした。

今年もお会式で日蓮大聖人のご高徳を偲び、御報恩謝徳に加えさせていた

だけたことは、健康なればこそと喜び

を重ねました。(通信員 栗木良子)

福岡支院

向かい風を受けながら唱題行脚

10月12日、秋晴れの空の下、支院の数ある年中行事においても重要なもの一つと言える「お会式唱題行脚」を今年も無事執り行うことができました。

午後2時、大庭持念上人導師のもとお会式の法要が厳修され、ご法話をお聞かせいただいた後、午後4時、お題目を合図にうちわ太鼓の音を響かせながら支院を出発。下は0歳児、上は80歳の101名の行列が、約7キロ先の日蓮聖人の銅像がある東公園をめざします。

10月とはいえ、背中に西日を受けながらの唱題行脚に、自然と汗が額ににじんできます。ペビーカーを押すお母さんや、大人に手をひかれ、泣き言ひとつ言わずに頑張る幼稚園児、向かい風を受けながらも自分の背丈の2倍はある幡(はた)を掲げて歩く中学生、

お互い手を取りながら歩くご年配の方々。

ここ数年、日本列島は地震や洪水、火山の噴火など、大きな自然災害に見舞われており、世の中が不安に満ちています。そんな今こそ、災難防止と心の平穏を保つために、お題目を唱えることが私達の使命という思いを胸に唱題行脚を行うのです。

午後5時30分に福岡市の繁華街、天神を過ぎた一行は、15分ほどの小休止をとった後、再び東公園をめざして歩きます。この頃には足元も暗くなり始まりますが、提灯に火を灯し、もうひと

踏ん張りです。

すっかり日も暮れた午後6時30分、ようやく日蓮聖人の大銅像の前に到着。無事到着したことへの感謝と喜びを噛みしめながら、お自我偈を唱えます。

東の間の休憩時間におにぎりをほおばって午後7時、他のお寺の信者さんとともにお題目を唱えながら、約1キロ、銅像護持教会の周りを歩きます。仕事を終えた方達もここで合流し、お題目の声も一段と力強くなって辺りに響き渡ります。

午後8時、すべての行程を終えました。今年も参加者全員、事故や怪我もなく元気に帰途に就くことができましたのも、三先師・日達上人はじめ、山首上人さまのお徳とご守護のお陰と、深く感謝申し上げます。

(通信員 大庭幸雄 代 大庭浩子)

関支院

我以外、皆我師 心に刻みました

今年も日蓮聖人のご命日にあたる10

月13日、お会式が営まれました。

3週間前に大勢の奉仕の方によって作られた紅白の万灯が堂内の左右で華やいでいます。ご宝前には日蓮大聖人御報恩謝徳のお塔婆が祀られています。中央の綿帽子を被されたお祖師さまのお側には「おみよっこ」が飾られ、きれいなお花や果物がお供えされています。

午後7時30分より、吉橋顕良上人導師のもと735遠忌の法要が厳かに営まれました。大勢の参詣者の読経が流れる中、左右から一人ひとり丁寧にお焼香され、長い列が続きました。

法要後、顕良上人は「今は12、13日の池上本門寺のお会式もライブ映像で見ることが出来ます」とご紹介くださいました。また、お会式にちなんで日蓮聖人のお会式花の由来や、亡くなられた時のご様子をひもとかれ「お題目を唱えて一生懸命お徳を積みましよう」とご教示くださいました。

続いて渡辺堯学上人は「中国に留学していた時、先生から『周りにいる人は皆、先生です』と言われ、心に強く

残りました。『一日一言』の9月17日に同じ言葉があります」と、善知識のお話をしてくださいました。その中の「自分以外の人は皆、先生です」という言葉を心に刻みました。

終了後、おみよっこは玄関に移動。参詣の皆さまはご供養とおみよっこを手に、感謝しながら笑顔で家路に就かれました。改めて日蓮聖人の波瀾のご生涯を偲ばせていただいた一夜でした。

四日市支院

毎日お花に水をあげるがごとく

10月13日、日蓮聖人第735回お会式が、鈴木修徳上人をお迎えして営まれました。

良い方へ変えて行けることを日蓮聖人はお話しされています」とご法話をいただきました。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、大題目旗や五色の吹き流しが風にたなびいていました。本堂の両側を彩る紅白の花万灯や、おみよっこがさながら満開の桜のように映える中、午後1時30分より法要が始まりました。厳かに流れる読経の声や響きわたるドラ・ハチの音に、日蓮聖人をお偲びし、御報恩感謝のお焼香をさせていただきました。

法要後、祖父江上人より「運命は功徳を積み罪障を消滅することで、より作りの鬼まんじゅうを召し上がられ、

秋の味覚を楽しみ、おみやつこを手に支院を後にされました。

(通信員 服部薫 代 加藤成子)

東京支院Ⅱ物故者法要・奉納演芸

覚束ないセリフ回しもご愛嬌？

10月16日早朝、ご宝前に整然と並べられた56基のお位牌が、射しこんだ朝の光を浴びて金色に輝いていました。

午前10時、ひんやりと秋めいた空気の中をお手伝いの方達が出勤。2階の宝前、1階の多目的ホール、廊下・階段・玄関・洗面所が、てきぱきと掃除されていきます。正午前にはお昼ごはんのタヌキうどんもでき上がり、ご供養のカレーパン、クルミだらけのメロンパンも揃って準備は万端、参詣者を持つのみです。

その陰で準備に懸命なのが日蓮劇の出演者達でした。前日の午後からリハ―サルに余念がありません。「そろそろ出番ですが、大丈夫？」「いや、まだ時間ありますから」と最後の追い込み中。

午後1時30分、太鼓が鳴りました。

紅白のお万灯が天井から吊り下がり、目にも鮮やか。感慨にふける中を、お上人と信教師の方々が登壇され法要が始まりました。切散華、方便品、咒讃。声明の響き、ドラ・ハチの音、金丸・木鉦のリズムが心に染み入ってきます。お会式は物故功労者の法要へと移り、お上人が読み上げられるそのお名前が、前方のスクリーンに映し出されていきました。

ご法話を伺った後、階下へ降りれば青年会と発心会有志による日蓮劇の開

一宮支院

笑顔でおもてなし

10月16日、お会式が厳修されました。

幕です。覚束ないセリフ回しもご愛嬌と、優しく、熱心に鑑賞した観客の皆さんは、最後におひねりを飛ばして、出演者の労に報いていました。

舞台の閉幕はそのままビンゴ大会の開幕の合図。巧みな司会の中で次々と「ビンゴ」「ビンゴ」の声が上がります。ところが何故かくじを引くたび4等、4等、4等…と続き、また4等？ひよっとして1等賞のカードを入れ忘れたのでは？と誰もが胸のうちでつぶやき始めたその時。幼子がくじ箱から両手で引き出した2枚のカードを「どちらか一つだよ」と諭されて無造作に捨てて残された1枚のカード。一瞬間をおいて、座がどよめいたのも当然でした。司会者が伝えたそれは「特等賞」だったのですから。

(通信員 川合和美)

秋風さわやかな好天のもと、バザー

も催され、感謝の声も弾みました。奉仕の皆さん「私のできることで」と元氣いっぱい参詣者を迎えていらつしやいました。

伊藤法尼より「今日もお徳をいっぱいいただいでください」とご挨拶があり、みんな心に留めて「さあ始めましょう」と威勢よく始まりました。

バザー会場の設営も「笑顔でもてなし」をモットーに、堂内清掃、バザー品目の下準備など賑やかに行われました。法要の準備も進み、今日からは綿帽子を被ったお祖師さまも参詣者をお待ちになっています。

バザー会場も賑わい始めました。本日のメニューは、抹茶・みたらし・ゆかりご飯・冬瓜汁・コロツケ・コーヒーズ。各部署ともに笑顔のご接待に、御法精進がにじみんでいます。呈茶の席も満席となり、ご婦人方も大ハッスルです。今日の色紙は御開山上人の「一日一善を積みば一年に三百六十五の喜びを得るなり」が掲げられ、実行の大切さを語り合い、いただく一服も格別

でした。ご接待する方、される方、ともに終止にこやかなうちにお開きとなりました。

お会式の法要が、大垣・香村上人導師のもと始まりました。声明とともに舞う散華も美しく、お祖師さまのお顔もほころんでいるようでした。艱難辛苦されて法華経を弘められた尊いみ教えに会わせていただいた私達です。読経の後、御報恩謝徳の心を込めてお香

高槻支院

笑顔が充実した一日を物語っていました

10月16日、さわやかな秋晴れのもとお会式と併せてバザーが開催されました。

お会式に先立ち午後1時よりバザーが開催されました。研修棟と境内の両方を使って関東煮・うどん・飲み物・コーヒール・おにぎり、そして子ども専用の綿菓子コーナーが軒を並べ、大勢の参詣者でたちまち大賑わい。バザー会場は子ども達が発する元気な声や、

を手向けさせていただきました。

法要後、上田常信上人は「御法を信じ、実行し続ける大切さ」をお話しくださいました。

今日はお楽しみと法要、ご法話で心も清められ、ありがたい一日でした。皆さんのご協力にも感謝し、日々の三徳の積み重ねを誓い合い、喜びのうちに終了しました。

(通信員 今枝文子)

久しぶりに会うお母さま方や親戚同士の会話で活気にあふれていました。奉仕の方々も笑顔で一生懸命頑張っておられる姿が印象的でした。

午後2時から岩田上人導師のもと、お会式の法要が厳修されました。ご宝前のお祖師さまには綿帽子が被され、その横には「おみよっこ」が飾られ、本堂の両脇の天井からは紅白の万灯が吊り下げられ、お会式らしい雰囲気

漂っています。法要の中では切散華が舞い、ドラ・ハチの音が鳴り響き、日蓮聖人のご遺徳を偲んでお焼香が行われました。

法要後、岩田上人より「日蓮聖人の、艱難辛苦を物ともしない気概に習って、私達も負けないように努力して、まずは家庭からこの教えを広めて行きましょう」とご教示いただきました。

続いて渡辺堯学上人は、20歳前後の中国留学時の体験談をお話してくださいました。異国の地で父上のご病気の知らせを聞き、病氣平癒を願う一心から父上から勧められた日達上人の『一日一言』を真剣に読むようになったとのこと。そして、「ようやく過去に積んできた自分の罪障に気づかされ、僧侶になる決意をしました」という尊い体験談でした。最後に、神戸・田中上人からは、不意に訪れる災難やピンチに陥った時にいかに日頃の信仰が大事か、また日頃の信仰が本物かどうか試されるというお話をうかがいました。

「報恩謝徳・供養の大切さや、困った

時にくじけない心を持ち、堪忍し、あきらめずに良い因縁に変えていく努力をすると、道は自ずと開けるのです」
今日は参詣された方々も奉仕の方々も、充実した一日を過ごすことができ

安芸津支院 敬老会

今世でお徳積みを、とのお導きです

10月16日、一週間前に飾りつけた真新しい花びらの紅白の万灯が、爽やかに過ぎる風にゆったりゆったりと右に左に動いています。

午前11時、大本上人導師のもと、没後734年日蓮聖人御報恩感謝の法要が営まれました。お上人より度重なる法難に見舞われた説話をお聞きしたほか、「長命の人は『今世でもっとお徳を積みましよう』という仏さまのお導きかもしれません。まだまだ長生きしてください」と興味深いご法話をいただきました。

山首上人さまから長寿の祝福をいただく人達は、「皆ともに幸せを作

たでしょう。また大きな功德をいただくことと思います。帰り際の皆さんの笑顔がそれを物語っていました。

(通信員 新庄達吉)

るんだ」「喜んでいただきたい」と、一生懸命お題目を唱え、ご精進をお誓いされてきました。最高齢100歳の女性を中心に、宝前に並ぶ面々の少し硬い表情をほぐそうと、見つめるギャラリから「ハイ、チーズ」と応援の声が掛かりました。

お昼は支院名物の焼きそば、婦人会メンバーの愛情たっぷり炊き込みご飯と味噌汁、デザートが並びます。

気がつけば、内陣が舞台に変身。幕が開くと、余興を楽しみながらもせわしなく箸を進めていました。ため息がこぼれるような雅な舞や、うっとり聞き惚れてしまう歌声に拍手が沸き、

本堂はいっぱいの笑顔であふれました。百賀の喜びを支院のみんなでもともに寿ぎたいと、用意してくださったご接待やおみよっこを戴き、皆さま帰途に就かれました。路地には、目に鮮やか

豊川支院

大きな利益を失わないようにします

10月20日午後7時45分、万灯が本堂に晴れやかに開花して、お会式法要が三宅上人導師のもと厳修されました。散華が舞い、ドラ・ハチの響きで堂内が清められます。迫害に屈せず、法華経を今世にお遺しくくださった日蓮聖人への、知恩のお焼香の列が絶えません。立ち昇る香煙は、ご苦難を追想するように広がりました。

法要後ご法話があり、平賀・後藤上人は「自分の心の中にある仏さまを大事にしてください。見えないものを大切にすること。見えないものは心です」と、ご自身の体験を交え、因縁を覚ることの大切さをお説きくださいました。

なオレンジ色の花をつけ甘い香りを放つキンモクセイ。秋景色の中、ゆつくりと歩を運びました。

(通信員 岸本輝子)

また三宅持温上人は「日蓮聖人が大変なご苦勞をされて伝えてくださったお陰で、私達は法華経に出会うことができました。今日は日蓮聖人への知恩報恩の心を表す日です」と、お会式の意義をお話しくくださいました。

施本『仏教聖典』の一節に「まこと

上野支院

堪忍する方が楽になります

朝晩めつきり涼しいというより、少し肌寒さを感じる日々が続いた10月21日、お会式が営まれました。

午後8時、橋本上人導師のもと宗祖

に、仏に会うことは難しく、その教えを説く人に会うことも難しく、その教えを信ずることはさらに難しい。(中略)この大きな利益を失わないように、仏を信じ喜ばなければならぬ」とありました。

生きていることの喜び、法音寺のみ教えに出会えた喜び、このお会式に参列できた喜び。すべて仏さまが与えてくださった功德であると、両上人のご法話から知ることができました。

法音寺の信者はいかなる時も、山首上人さまに護られているという喜びを噛み締める法要となりました。

(通信員 鈴木康昭)

日蓮聖人第735遠忌御報恩法要の開始です。ドラ・ハチが響き渡り、莊嚴な説経が流れる中、参詣者一人ひとりが丁寧な香を手向けられました。

法要後、橋本上人は「一日一言」を引用され「菩薩行の修行中の身である故、常に精進を心掛けて心を整えていくことが大切です」とご法話くださいました。続いて大庭上人は日常の体験を通して「日々こつこつと徳を積み、堪忍をしていくと、仏さまは『堪忍す

る方が楽だよ』と教えてくださっているように思います」とご教示くださいました。
参詣者各自、おみよつことご供養を戴き、散会となりました。

(通信員 廣出寛二)

平賀支院Ⅱ敬老法会・七五三祈願会

老いも若きも幼児も楽しみました

10月23日午前11時より敬老法会が行われ、午後1時よりお会式並びに七五三祈願会が奉行されました。

午前8時30分より報徳会・青年会・婦人会の皆さんのご奉仕が始まりました。テント張り、テーブル・イスなどの備品を倉庫から運びだし、10時を少し過ぎた頃には奉仕者向けのバザーが始まりました。

奉仕の方が交流できるひとときです。うどん・シフォンケーキ・杏仁豆腐・フランクフルト・みたらしなどをいただきました。

午前10時30分より敬老法会の受付が始まり、11時より後藤上人導師のもと35名の方の長寿と健康が祈願されました。

山首上人さまのご祝辞を披露いただき、その後、招待の皆さまは後藤上人より特別神通掛けを受けられました。晴れ晴れとしたお顔で、会食の席に着かれました。

午後1時よりお会式法要が始まりました。最前列には七五三祈願の子ども達が着席。お上人と一緒に記念撮影、千歳館を手をうれしそうな顔を見せて

くれました。

終えて、老いも若きも幼児もお楽しみはビンゴゲームです。掃除機・ハウスタスター・加湿器・お米・寝具など、盛りだくさんです。青年会の軽妙な進行で、130名が笑顔で過ごしました。

敬老法会にて後藤上人より「日本の言葉で、お陰さまがベスト5に入っただそうですが、ありがたいの心があってこそ言える言葉だと思います」とご法話をいただきました。そして、「生かさせていただいていると思えば何かにつけて、感謝の心を持つことができます」とご教示いただきました。

午後3時にはバザー会場も本堂の万灯もすっかり片づきました。山首上人さまのお徳をいただき、行事が無事できたことを皆さんとともに喜び、感謝申し上げます。(通信員 加藤寧子)

支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。

福祉のひろば

少子・高齢社会の中の日本の福祉

「うちのおじいちゃん、認知症かもしれないから病院で検査してもらいたいけど、なかなか病院に行ってくれない…」という悩みを抱えている方はよくいらっしゃいます。というわけで今回は、こういう場合にどう対応すればよいかというお話をしたいと思います。

病院受診をいやがるのは、これまで健康で医者にかかったことのない高齢者の方に多く見られます。また、一生懸命に病院に行くように言えば言うほど、よけいに拒否

するようになる傾向があるようですから、いくら症状を心配して病院に行くことをすすめても、納得してはくれません。

認知症ケアの原則は、「説得」よりも「納得」です。相手に病院に行くことを「納得」してもらうために、病院に行くことを拒否する理由を考えてみるのが大切です。

これはただのもの忘れて、病気ではないと思っ込んでいる方もあれば、検査することで結果が判明することに不安を感じてい

る方もいらっしやいます。また単に、病院に行くことを「億劫」と思っている方もいらっしやいます。それぞれに、病院に行きたくない」という理由があるのです。

ではどのように「納得」してもらおうかですが、例として「健康で長生きしてほしいから、念のため健康診断を受けに行きましよう」という言葉に添えて、病院に行くついでに好きな物を食べに行ったり、好きな場所に寄ったりするなど、「楽しみ」と思えることをつけ加えて伝えてみるとうまくいく場合があります。

また、家族以外の第三者である医師から「今は健康ですが、年齢を重ねると心身に不都合がでてきますので、念のため検査をしておきましょう」と検査受診をすすめて

もらうことで納得される方もいらっしやいますし、「市長さんから長寿のお祝いに無料の検査案内が届いたから、この機会に一度検査に行きましょう」という説明で「納得」された方もいらっしやいます。

いろいろと例を挙げましたが、症状の現れ方は人それぞれ異なりますし、人の性格もさまざまですので、これらの方法を試しても必ず奏功するとはかぎりません。

認知症の診断を受ける場合は、日本老年精神医学会専門医や、日本認知症学会認定専門医のいる医療機関を選びましょう。また初回受診時には、現在の症状や今までの病歴など、受診される方の状況をよく把握している家族の方が付き添われることを、是非おすすめます。

(K・T)

福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会

児童養護
施設

名古屋若松寮の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

修学先生の教えに感動しました

名古屋若松寮 調理員 市野 智子

まず初めに、この本を通して修学先生に出会えたことに感謝します。

修学先生は幼い頃より学問に優れ、生まれながらの積極的で明るい性格に誠実な心と勤勉な気質を兼ね備え、行く先々で多くの方々の信頼を得て事業の手を広げました。時には失敗もありましたが、くじけることなく新しい技術を吸収して仕事に励み、大きな成功を収めることができました。

杉山辰子先生との出会いが大きな転機となり、不思議な力に導かれるように次々と事業を拡大して、子どもたちのため・困っている人のために力を注ぎ、自分を犠牲にしても人助けのために生涯を捧げられました。

法華經の教えに基づき不幸な方々を助ける慈善活動に懸命に取り組み、苦しむ人々に救いの手を差し伸べて多くの方を助けることができました。

「生の松原」での体験から得た三つの教訓は、

「真心をもって社会事業をすれば、助けてくれる人がたくさんいるということ、事業は為せば成るものだ」「社会事業の経営は、一方に収入の道を考え、生産の道を開いて、其の収入に比例して事業を行うことが堅実である」

「世間の人々の理解と、大きな援助の基に事業を進めて行くべき」

この教訓をこれからの福祉事業の指針として力を発揮することになりました。

罪を犯した少年たちにも、自らが率先して働くことで少年たちに働く意味と楽しさ・喜びを教えました。苦労をともし、真心をもって導けば、必ず人の心を動かせることを示しました。修学先生は、多忙の中でもご自分の体験を踏まえてわかりやすく噛み砕いて話をされ、講演ではいつも笑いが絶えませんでした。法華經の教え「慈悲・至誠・堪忍」の三徳は、救済会を支える精神の柱です。また、「人に親切にしよう」

「人を必ずほめよう」「何事にも精一杯の力で取り組みよう」「今日一日だけは堪忍しよう」と皆にわかりやすく説いていきました。

この本を読み終えて、何とますがすがしい気持ちになり、とても気分が良く爽やかな心持ちで何度も読み返しました。修学先生の努力と苦労は計り知れないものですが、それ以上に得たものの多さと喜びに感動しました。

「どんな困難な状況でも、明るい心を失ってはならない」「不平不満を口にすることは、忍耐を破ることになる」この他にもたくさんのお言葉をいただき、これからの私の人生を支える精神の柱にしたいと思います。これから先、修学先生のお言葉を支えに三徳を守り、今を大切にしたいと思います。

子どもをほめながら見守っていきます

名古屋若松寮 保育士 二木 万緒

私が就職した名古屋若松寮は児童養護施設です。児童養護施設にはさまざまな家庭の状況で親と生活できない子どもたちがいます。その子たちはそれぞれ心に傷を負っています。その傷は消えることはなくても治

することはできると私は思います。そして、その傷を治してあげることでも私の役目だと思っています。子どもたちが今生活している中で感じていることなど、話を聞いて共感してあげたいと思っています。また、苦勞している内容は違われどその苦勞をともし、改善できることや、子どもにとってプラスになることであれば私のできる範囲内で協力して支えたいと思いがら接しています。

修学先生の「苦勞をともし、真心をもって導けば、必ず人の心を動かすことができる」という教えは本当にその通りだと私は思いました。私が今の思いを持ち続けて子どもたちと接していけば、子どもたちが施設から出た時に安心して新しい道に進むことができるのではないかと感じました。

年を重ねれば多くの子どもが施設を出ていきます。親と生活できる子もいればそうでない子どももいます。施設で働いている私は、子どもたちが新しい道へ進むまでは親代わりです。子どもたちが生活していく中でだらしな部分など目にとすると、正そうとしてつい指摘することが多くなってしまう。すると、ほとんどの子どもが素直に聞くことはせず、不満や否定から

入る話し方をします。そこで、この本に記されている「ほめて育てる」指導法をしていこうと思いました。

私自身も、できていないことを何度も指摘されると、自分に非があってもなかなか受け止めることはできないと思いました。ならば「大人不信」になってしまっている施設の子どもたちは、なおさらそう思うだろうと感じます。

普段仕事をしている中で目についてしまうのは、子どもたちの良くない部分だったと気づきました。子ども一人ひとり、苦手なこともあれば得意なこともあり。苦手なことが多い子が施設には多く、幼少期にほめられた体験も少なかったと思います。だからこそ「ほめる」ことは大切だと私は考えました。また、「良いことがなければ、何か仕事をさせて、そのことをほめてあげてください」という言葉を見て、実践していこうと思いました。

子どもにとって、「ほめられる」ことは成長していく中で大事なことだと改めて理解できました。子どもをほめながら、その一日の生活を温かく、しっかりと見守る姿勢を身につけていこうと強く思いました。

子どものことを第一に考えて行動します

名古屋若松寮 保育士 小澤 愛梨

私はこの本を読んで、昭徳会を築き上げた修学先生のことを学ぶと同時に、児童養護施設で働くとはどういうことをかをもう一度よく考え、働く上で大切にしなければいけないことも学ぶことができました。

特に心に響いたのは「あの子はダメだ。今日もああいう悪さをした、ということとは明日考えるところとして、今日は良かったことだけを探してほめてあげてください。良いことがなければ何か仕事をさせて、そのことをほめてあげてください。それが一番良い指導法なのです」という言葉です。

この言葉を読んだとき、今の自分はきちんと一人ひとりをほめているのだろうか、注意してばかりになっ
てはいないか、と日頃の自分自身を振り返りました。今の自分はほめることより注意することの方が多いように感じます。そんな自分ではいけないと思い、この本を読んで修学先生の考えや思いを学んだからこそ、子ども一人ひとりをしっかりとほめ、成長できるようにしていきたいと思いました。ほめるためには子ども

をしつかりと見て個性を把握することや、「この子、これは苦手なのに頑張っているな」、「いつもより朝起きるのを頑張っているな」など、日々の変化に気づくことが大切だと思いました。

今まで以上に一人ひとりをしっかりと見ていき、変化に気づき、それを言葉で子どもにも伝えていきたいです。しかし、時には注意することも大切です。そういつた時には、しっかりと子どもと向き合い、まずその子をほめ、その後にはわかりやすく子どもにも合わせた注意の仕方です、「いけないことはいけない」ときちんと伝えられるようになりたいと思いました。

昭徳会の基本方針、

「一人ひとりに思いやりの心を持って接します」

「一人ひとりを尊重し、その人に合った支援、援助をします」

「一人ひとりを大切にし、まごころで接します」

「すべての人の幸福をめざし、たゆみなく援助技術の向上に努めます」

「お互いに助け合い、より良い生活ができるよう努めます」

この方針を常に意識して子どもたちと関わっていこ

うと思います。家庭でさまざまな思いをしてきた子どもたちを支え、社会でしっかりと生活していけるように指導・援助するのが職員の役目です。子どものことを第一に考えて行動したいと改めて思いました。

子どもやお年寄り、障がいをもった方たちのことを一番に考え大切にしていた修学先生が築き上げた「日本の福祉」をしつかりと学んでいくことで、子どもに對しより良い援助・支援ができるのだと思いました。

修学先生の三つの言葉に考えさせられました

名古屋若松寮 保育士 村田 円満

この本はハンセン病患者さんの救済など、弱い立場にある人々の真の幸福を願って尽力された鈴木修学先生について書かれています。修学先生は惻隱の情（思いやりの気持ち）にあふれた人で、「社会福祉は人にある」と喝破され、日本初の社会福祉学部を持つ日本福祉大学を創立、「単なる学究ではなく、また自己保身栄達のために汲々たる気風ではなく、人類愛の精神に燃えて立ち上がる学風」を打ち立てました。そんな修学先生とはどんな人物だったのかが記されています。

また今から五十数年前、この本の筆者がまだ早稲田

大学の学生の頃、鈴木宗音師（前法音寺山首・日本福祉大学学園長）に出会い、後にその旧友の実父が修学先生であることを知りました。その修学先生が社会福祉教育の先駆者として尽力してきたことに感激し、福祉サービスの実践と福祉教育に生涯を捧げた業績を後世の人たちに残すことが何よりもご自分の使命である、という思いで書いたそうです。

この本を読んで心に残った言葉が三つあります。

一つ目が「あなたは自分の正体がわかっていますか」という言葉です。まるで今の自分に言われているような感じがして、深く考えさせられました。私が今その言葉を言われたとしたら、「少しはわかっていない」と思うが、すべてはわかっていない」と答えると思います。少しずつですが自分のことがわかるようになっていたいと思えました。

二つ目が「あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」という言葉です。言われるだけで自分に自信を持つことができる、とても良い言葉だと思えました。

三つ目は「幸せになりたければ、幸せの種をまくことが必要です。米も野菜も種をまかなければ収穫する

ことができませぬ。幸せの種さえまけば、人は本当の幸せになれるのです」という言葉です。確かにと思いはたることがあります。例えば、相手に優しくされるとうれしくなったり、幸せになつたりします。逆に相手に嫌なことをされると、嫌な気持ちになつたり、不幸な気持ちになつたりします。自分が嫌なことは人にせず、人には優しく接すること。そんな幸せの種まきを私もしていこうと思いました。

最後に、この本に書かれていた鈴木修学先生の生き方には尊敬の念を抱くばかりで、修学先生のようにあきらめずに努力を積んでいこうと思いました。また自分自身について深く考えさせられ、とても自分のためになる本でした。

自分に課された役割を見出したい

名古屋若松寮 心理療法担当職員 春木 万里

昭徳会を知るまで、私は鈴木修学先生の存在を知らずにいた。また、初任者研修や『日本の福祉を築いたお坊さん』を読むまでは、その人が何をしてきた人であったのか、というのはいささか知らないでいた。そのため、ハンセン病の人々、戦災孤児、児童養護施設の子

どもたち、知的障がい児のためにここまで動いた人がいたことに衝撃を受けた。そして、最終的には福祉の専門家を養成する大学の創立を成し遂げてしまったことにも。どうしてそこまでできたのだろう、何が修学先生を突き動かしていたのだろう、と私は読み切った後も疑問を抱え続けている。

社会福祉に関する職に就いたとはいえ、自分の身を削ってまで誰かのために何かを成し遂げようとは、正直に言うとなんか私にはそこまで思えない。それは私自身の弱さなのかもしれないが、生きていくと少なからず自分の利益について考えてしまう。他人にのめりこんでしまえば、心が壊れてしまうのではないかと思ってしまう。対人援助・社会福祉に一生を捧げた修学先生だからこそできた、私生活とのバランスの取り方や人との距離の取り方だったのかもしれないと感じた。これに関連して、「子どもをじっくり観察していた」という表現が印象的だった。人との距離が近くなる職業であるが、「観察」という一歩引いた見方をすることで、近すぎると見えない部分が修学先生には見えていたのかもしれない、と感じた。

また、修学先生一人がすべてを成し遂げたわけでは

く、周りの協力あってこそであったことも印象深かった。それは、先生の人柄に周りの人々が惹きつけられていたことが大きかったと思うが、やはり協力がなければ、修学先生は実に変な思いをしていただろう。

微力ではあるけれど、自分にも何かできることがあるのではないだろうかと思える。それはきつと、一人で成し遂げることはできない。私生活を大切にしながら、仕事として周囲の方々を頼りつつ、連携しながら、少しでも誰かのために役に立ちたいと感じた。

杉山辰子先生の「自分に課せられた役割は追々気づくであろう」という言葉が心に残っている。私は今、仕事に就いたばかりで目先のことしか考えることができず悶々としている。しかしながら、杉山先生の言葉を知り、「自分にはどんな役割があって、どんな風に役立っていきけるのだろうか」という疑問が晴れていくような気がする。

昭徳会に入り、修学先生の存在を知り、社会福祉に何かしら貢献しようとしている自分がある。役割が見えてくるまでは、とにかく仕事を続けてみようと思う。この本を通して、継続には必ず意味があるということ、改めて感じさせられた。

心をもって子どもたちに接します

名古屋若松寮 児童指導員 末長 千恵子

鈴木修学先生は、弱い立場にある人たちの幸福を願い、その人たちのために尽力されました。誰かのために何かをしたい、人の役に立ちたいと思ってもなかなか動くことができず、躊躇し、ためらってしまいがちですが、相手のことを考え、行動できる修学先生は本当にすばらしい方で心から尊敬します。私自身、困っている人を見かけても声をかける勇気がなかったり、すぐに動くことができなかったりするので、見習いたいと思います。

杉山辰子先生と出会い、相手を幸せに導くために、法華経の教えにより困っている人へ手を差し伸べるだけでなく、人々を手助けする大切さを説いてまわりました。福祉は相手があつてのものです。ただ手を貸したり、手助けしたりするのではなく、心をもって手を差し伸べなくてははいけませんと改めて思いました。児童養護施設の子どもたちは、心に傷を負っている子が多く、すんなりとはいえないことが多いと思いますが、淡々と仕事をこなしていくのではなく、しっかりと心

をもって子どもたちと日々接していききたいと思いましたが。

ハンセン病の患者さんたちが博多どんたくを見に行けるように、自分たちの大切なものを質屋に持っていく、着物を買って連れて行くなど、修学先生は自分の生活を切り詰め、大切なものを手放してでも患者さんたちのことを優先させました。自分を犠牲にして何かをするというのはとても大変なことだと思います。また、世間の理解がない中で援助をしていくのは、さまざまな場面で困難に立ち向かうことになると思います。修学先生が自らの体験で得た三つの教訓を私も大切にしていきたいと思いました。

修学先生は孤児たちを一人ひとり説得し、寮で生活させ、裏切られても温かく見守り、心の傷が癒えるまで優しく愛情を注ぎ、子どもたちをほめました。私も、自らが誰よりも必死になって働く姿を見せ、明るく接し、真剣に向き合うことが大切だと改めて感じました。施設にいる子どもたちは衣食住に関してほぼ満足な生活ができますが、集団生活ゆえのルールがあったり、一对一の時間が取れなかったりと心の面では不自由に感じていることが多いと思います。世間の人たち

は児童養護施設についてよく知らないと思います。良くないイメージを持つたり、かわいそうと思っているかもしれません。子どもたちが笑顔で社会に出られるように、可能な限り一对一の時間や一緒に遊ぶ時間を作り、子どもたちとしっかりと向き合っていきたいと思えます。子どもたちの良いところをたくさん見つけて、もっともっと伸ばしていきたいと思えます。

一人ひとりの笑顔のために

名古屋若松寮 児童指導員 遠藤 明代

「あなたは、自分の正体がわかっていきますか」
「あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」

この二文が私の心に大きく響いた。なぜなら私自身がつずっと心に問い続けていることであり、この年齢になっても見い出せていない問いだからである。何か大きなことを成し遂げたいわけではない。自分は何をすることで自分らしく生き抜くことができるのか、日々探し続けているのである。

そして、他の誰でもない「私自身でなければできない役割」を見つけ出すことができたのならば、それこ

自分が自分の人生において歩むべき道であると考えられる。それを私は模索し続け、四十歳を過ぎ、この福祉の世界に飛び込んだのだ。

修学先生の教えの一つに「一つのことを教えようと思ったら、五つくらいほめてあげる」というものがある。今でこそ世間でも「ほめて育てる」と言われているものの、昭和初期に説いていらつしやる修学先生のすばらしさに驚嘆してしまった。

私は以前学校で働いていた。教育・福祉どちらの現場でも「ほめる」ことがなかなかできない現状にある。「五つほめて一つ教える」それを実践するために必要なものは「余裕」だと思う。子どもが一つのことを成し遂げるための時間の余裕。焦らせることなく、待ち続ける心の余裕。これらは子どもに対するときに限らず、自分の身の回りの人、仕事、生活全般に共通して言えることなのではないだろうか。今年度の私は「何に対しても余裕を持つ」ことを目標としてスタートした。

昭徳会の活動基本方針についても明記してあった。その中の「一人ひとりを尊重し、その人に合った支援・援助をします」という一文にとっても共感した。長年

働いた学校現場で、特に障がいのある子どもたちには、「一人ひとりの発達段階に応じたカリキュラム・支援をする」という観点から何事も進められているからである。その一文がここにある。個性を大切にしている教育が、この福祉の現場、昭徳会の活動の基本方針に組み込まれていた。私の中で、教育と福祉が融合した。

幸せに歩む。幸せになれる権利を持った子どもたちがこれから笑顔の花を咲かせるために、一人ひとりの発達段階に応じた個別支援を行うこと。「集団の中の子ども」と捉えるのではなく、一人ひとりの子どもの存在意義を認めること。子どもが直面している問題や心の叫び、言葉を真正面から受け止め、心に寄り添うこと。これらを私は子どもとの関わりの中で大切にしている。その思いと「慈悲・至誠・堪忍」の思いを合わせ持ち、信じて進んでいきたいと思う。

福祉の現状に必要な修学先生の理念

名古屋若松寮 児童指導員 渡部 隆一

「幸せになりたければ、幸せの種をまくことが必要です。幸せの種さえまけば、人は本当の幸せになれるのです」

鈴木修学先生の師、杉山辰子先生の言葉が私の心に響きました。

私は十九年間、児童養護の世界に身を置いています。常々心の中心にあるのは「この施設で生活する子どもと職員が毎日笑っていること」です。そのため「子どもが笑顔でいるためには職員が笑顔で心が豊かでないといけない」と職場環境の整備に力を注いできました。杉山辰子先生や鈴木修学先生が昭和の初期、物もお金も制度も国の支援も無い時代に、人々の幸せを考えて行動していたのには、ただただ頭が下がる思いです。

この本には、今の仕事を続ける上でヒントになることが多く書かれています。一つは臥竜山での農業支援で、修学先生は必ずご自分で仕事をやって見せて少年たちに教えていました。手本を示し、手順とコツを教え、子どもたちと一緒に汗を流すことは現代においても大切な支援の形だと思えます。

また、育児院を運営した際に職員に話した「体罰を加えても良くなった子は一人もいません。どんな子どもでもほめてやると必ず良い子になります。良かったことだけを探してほめてあげてください。子どもをほ

めてやるためには、子どもの一日の生活を温かく見守ってあげてください」の言葉は、今福祉の仕事をする私が心に留めなければいけない大きな大きな教えだと思います。他にも修学先生の言葉には今の福祉の現場だけでなく、社会全体が参考になればならない教えがたくさん含まれていると思います。

この歳になつて修学先生が創られた法人で仕事をさせていただく幸せを感じています。昭徳会の基本方針を常に頭において毎日を過ごしていきたいと思えます。最後になりますが、修学先生が始められた大運動会や野球大会が今もお名古屋市内の施設の子どもたちを集めて行われていること、多少なりともその運営に携われたことは、私の誇りです。今感じているホットな気持ちや忘れることなく、法人の発展と子どもたちの未来が明るいものになるように努力していきたいと強く思います。

修学先生の考え方を仕事で実践します

名古屋若松寮 保育士 山本 わか菜

修学先生は、とても素晴らしい人だと思いました。宗教のことはよくわかりませんが、修学先生の考え方

から学べることは多く、時代の変わった今でも児童養護施設で仕事をしながら実践できることもあると思います。物語のエピソードを例に挙げながら、私にできることを考えていきます。

生の松原でのハンセン病療養所での運営では、最初に夫妻で施設の修理に取り掛かりました。隔離され、人間としての尊厳が奪われた人に対して生活環境の整備はとても大切なことで、児童養護施設でも取り組めることです。家庭で虐待を受け、保護者という本来守られるべき相手から人間として扱われない児童に対して、目に見える形の最初のお世話だと思いました。

私も、施設で仕事をしながら環境整備を心掛けていきたいと思いました。学校や部活で疲れている児童が帰ってきた場所が「きれいだな」と思える空間を提供していきたいです。また、忙しくて疲れている児童には、本人の望む範囲でお手伝いをしていきたいです。

ハンセン病療養所では「生きていく間にお母さんに会いたい」「故郷に帰りたい」と言う方もいらしたそうです。児童養護施設でも同じことが言えます。どれだけ親と良くない関係であっても、子どもは親を求めます。子どもに対して「あなたは悪くない」というこ

とも丁寧伝えることが必要だと思いました。

藤森の育児院の職員に「手に負えない」と言われた正男という少年を修学先生が指導した際には、一緒に落ち葉の掃除をすることから始めました。最初は乗り気でなかった正男君も、ほめられ、一緒にやってくれる大人がいることで修学先生に心を開いたと、その様子が書かれていました。今の時代でもほめること、一緒に作業をすることが必要です。児童養護施設の子どもはほめられた経験が圧倒的に少なく、こちらがほめたことに対して「そんなことない」と否定し、素直に受け入れることができません。自己肯定感を育てるためにも、ほめることを繰り返していきたいと思えます。しかし、子どもも成長過程なので間違ったこともあります。指導をする際には「五つほめて一つ指導」とありましたので、それを心掛けて指導をしていきたいです。

多くを失った子どもに対して、職員が完全にそれを埋めることはできません。しかし生活をともにし、話をして子ども自身を理解することで自分を取り戻すことができるのではないかと思っています。丁寧な仕事を心掛けて、日々支援をしていきたいと思いました。

ほめて育てる指導を心掛けます

名古屋若松寮 児童指導員 藏屋敷 耕平

この本の筆者・星野貞一郎氏が鈴木修学先生とのつながりを「めぐり合わせ（仏縁）」と表現されています。自分が昭徳会に就職したこともまた何かの「めぐり合わせ」であり、それによってこの本に出会ったのかもしれないと思います、読み始めました。

修学先生は「本当の幸せとは何か」という疑問を抱き、師となる杉山辰子先生と出会い、仏教化救済会への入会を機にさまざまな活動をされました。その中でも藤森の育児院での活動や、終戦後の戦災孤児の収容という活動では現在、私が働いている児童養護施設の仕事に通じるところがあり、自分と照らし合わせながら読みました。

本によると藤森の育児院では、虐待を受けた子どもたち、親から捨てられた子どもたちを受け入れており、心に深い傷を負った子が多かったそうです。その中で修学先生は、正男という男の子に対し、その子の悪いところばかりを見つけて叱るのではなく、良いところを見つけ、ほめることで認め、その子の心を開いてい

きました。

自分も実際に現場で働いていると子どもに対して、忙しさからか良い面を見つけられず、悪いところばかり目を向けがちです。修学先生が藤森の育児院の職員に話をした言葉が心に深く残りました。

「世間には悪い子には体罰を加えるべきだという考え方があります。叩いたり、寒いところに立たせたり、水をかぶらせたり、ご飯を食べさせないようにすることです。しつけようとする人がいます。しかしこれは絶対にしてはいけません。今までの私の経験の中で、そういうことで良くなった子は一人もおりません。いいですか。どんな子どもでも、ほめてやると必ず良い子になります。皆さん『あの子はだめだ。今日もああいう悪さをした』ということとは明日考えることにして、今日は良かったことだけを探してほめてあげてください。良いことがなければ、何か仕事をさせて、そのことをほめてあげてください。それが一番良い指導法なのです。一つのことを教えようと思ったら、五つくらいほめてあげることが必要です。五つほめて一つ教える。この心構えを覚えておいてください。子どもをほめてあげるためには、子どもの一日の生活を温かく、そし

てしっかりと見守る姿勢を身につけねばなりません。皆さん、くれぐれも慈悲と至誠、そして堪忍の心を忘れずに子どもに接してあげてください。皆さんは子どもたちにとって、かけがえない親なのですから」

修学先生が語られた「ほめて育てる」指導法は、児童養護では一番大切なのではないかと思えます。施設には家庭で親や大人から認められた経験が少ない子が多く生活しています。子どもは職員や大人に認められたいという思いをみんな持っています。時には間違った方法で大人に認めさせようとする子がいますが、正しいことをした時に大人がしっかりとほめてあげれば、間違った行動も自然になくなるのだと思えます。

そう言うのはたやすいことですし、現場では、日課や行事に追われ注意をすることが増え、余裕がなくなつて子どももしっかりほめてあげることも忘れがちです。そんな時に修学先生のこの言葉を聞けば、救われる職員や大人もたくさんいるのではないかと感じます。最後に杉山辰子先生の「幸せの種まき」という言葉から、福祉というのは、関わった人に幸せの種をまいてあげることだと思えました。そしてその種を一緒に育て、花が咲けば一緒に喜ぶ。それが福祉の仕事なのだ

だと感じました。

愚痴をこぼさず人と接していきます

名古屋若松寮 保育士 山口 和美

修学先生は、人のために生きて、何の見返りも人に求めない人生を生きてこられた方なのでしょう。この本を読み、信念をもって自ら率先して行動し、世の中に幸せをもたらされた修学先生の歩みを知ることができました。

自分自身を振り返ると、困難を避け、悩みや苦しみから逃げていたように思います。一つの困難から逃げても、また、同じような困難に遭遇してきたようにも感じています。

挫折を味わっても、それを成長の糧に変えていくためには、師の教えや仏を信じる清い心が必要でです。日々の生活の中で「慈悲・至誠・堪忍」の三徳の教えを実行することで、その心が培われるのだと感じました。私は前職を長年勤め、このままの自分で良いのだろうか」と悩んでいました。そんな折に、昭徳会という新たな道が開かれるきっかけをいただき、大変感謝しています。このたび修学先生のご生涯にふれること

で、真心をもって人と関わることの大切さを学びました。また、宗教者として、社会事業家として、教育者として多くのことを成し遂げた修学先生の原動力に圧倒されました。

私はまだまだ努力が足りず、心に甘えがあると感じています。子どもたちとのやり取りで心に葛藤が生じ、時に落ち込んでいるのは、自分のことばかり考えているからだと思ってきました。子どもたちの幸福を願って接することにより、道も開けてくると信じます。

腹が立つことがあっても、愚痴をこぼさず、堪忍を破らずに人と接していきます。愚痴をこぼしても、堪忍を破っても、結局はさらなる困難が我が身に振りかかってくるのですから…。

この本を読んで、共感することも多く、大変勉強になりました。

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・160頁・800円(税別) 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

児童養護施設 名古屋若松寮

●愛知県名古屋市長区山香町321

●入所定員32名

●職員 正職員23名、パート職員4名

●調理員 入所者の給食の調理を担当。

●保育士（児童福祉分野） 児童福祉施設において児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。

●心理療法担当職員 虐待等により心的外傷がある児童に対して、心理療法やカウンセリングを実施し、対象児童の自立を支援する専門職種。

●児童指導員（児童福祉分野） 児童福祉施設において、児童の生活指導を行う。次の任用資格が必要。①地方厚生局長の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設を卒業した者。②大学の学部で、心理学、教育学又は社会学を修め、学士と称することを得る者。③小学校、中学校、高等学校の教諭の資格を有する者。④高等学校を卒業した者であって、2年以上児童福祉事業に従事した者。⑤3年以上児童福祉事業に従事した者であって厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定した者。具体的な進路としては、4年制の福祉系大学を卒業するか、大学で、心理学、教育学、社会学を専攻し、児童指導員任用資格を取得することが一般的。

※本稿は平成28年9月に頂きました。（掲載順不同）

若松フェスティバルを開催



写真提供・昭徳会

児童養護施設・名古屋若松寮
～地域から多くの方々が参加 交流の輪広がる～

10月29日、名古屋若松寮の年に一度のお祭りイベント「若松フェスティバル」が開催されました。今年4月に名古屋市から当法人・昭徳会に運営が移管されたばかりの「若松寮」ですが、施設名称も「名古屋若松寮」へと生まれ変わり、心新たなスタートとなりました。

若松フェスティバル（以下、若フェス）は、子どもたちとの話し合いから始まりました。日頃からお世話になっている地域の方へ、感謝の気持ちをお届けするため、「地域の方をおもて・な・し」を合言葉に、新生名古屋若松寮の僕たち・私たちを知ってもらおうと、職員と子ども一丸となって頑張りました。

メイン会場も、よく目立つ道路沿いの駐車場へ移動。飾りつけも、万国旗やたくさんの風船で、フェスティバルの雰囲気を前面に押し出しました。また、学区内24地区の回覧板に案内状

をはさませていただき、小学校や寮のフェンスにも、子どもたちお手製のポスターを貼り出してアピール。主体となった子どもたちのやる気、そして職員の知恵と、新規採用職員のフレッシュな活力も相まって、皆が意欲を強く持って準備を進めることができました。

迎えた当日。絶好の秋晴れの中、子ども実行委員の司会の声が響き渡ります。開会式は、名古屋を拠点に活動されている音楽グループの方の素敵な歌声からスタートです。その後、子どもたちの希望を取り入れた食べ物（焼きそば・豚汁・揚げたこ焼き・パチパチクリームソーダ）・工作（プラバン）・遊び（ストラックアウト）の全6ブースで、子どもと職員が地域の方を「おもてな・し」、お腹も心も満たしていただけのようにしました。お子さん連れのご家族も多く、終始賑やかな若フェスでした。たくさ

んの卒業生も駆けつけ、足を運んでくださった元職員の方々と昔話に花を咲かせる姿も印象的でした。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、若フェス大詰めです。子ども実行委員によるビンゴ大会では、大いに盛り上がりました。

閉会式では、名古屋で活動されているよさこいチームの方に演舞をご披露いただき、華やかな雰囲気の中、幕を下ろすことができました。

昭徳会に移管後の第一回目の若フェスということで、至らない点多々ありましたが、普段から参加させていただいている地域の子どもの方々や学校の先生方が来てくださったなど、着実に地域との交流の輪が広がってきていることを実感することができました。

児童養護施設・名古屋若松寮

グループリーダー（児童指導員）

牧野亮平

高校生の『ふくしまインド』を育む

日本福祉大学「高校生福祉文化賞エッセイコンテスト」

日本福祉大学「高校生福祉文化賞エッセイコンテスト」は、学園創立50周年記念事業の一環として始まりました。全国の高校生から、「わたしと福祉」をテーマに掲げたエッセイを募集して、その中から優秀な作品を表彰しています。朝日新聞社と共催していますので、新聞に掲載された募集広告や入賞作品をご覧になられた方も多くいらっしゃると思います。

創立者・鈴木修学先生の建学の精神を継承し、広く社会の中で福祉文化が醸成される取り組みを進めていくことは、本学の大切な使命の一つです。このエッセイコンテストも、次世代を担う高校生に、日常生活の中で福祉を見つめ、福祉を感じて、自らの言葉で表現してもらうことにより、ささやかでも高校生の『ふくしまインド』を育むきっかけになることをねらいとしています。

高校の先生方には、授業や課外活動などでこのエッセイコンテストをご活用いただき、毎年のように応募いただいている高校も多数あります。また、高校生自身が主旨に共感してくれて、個人でもたくさんのお応募をいただいています。14回目を迎える今年も、北海道から沖縄まで全国180校より8491点、また海外からも含めて個人応募が101点、総計8592点の応募がありました。入賞作品は過去のものも含めて本学のホームページでご覧いただくことができます。

このコンテストは、単なる表彰事業ではなく、修学先生がその生涯を通じて実行されてきた「幸せの種まき」の一つと考えています。

日常生活でのさまざまな体験を通じて、800字以内のエッセイとしてまとめ上げるといった過程において、自分の「ふくしま」を思い描き、人が人として



ちょっといい話、伝えます。

第14回 高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト

主催／日本福祉大学、朝日新聞社
後援／文部科学省、愛知県教育委員会、日本青年団協議会
日本赤十字社、ベネッセグループ(株) 進研アド

尊重されるしあわせな社会とは何か、またその実現のためには何をしたらいいのかを、一人ひとりの高校生が、高校生なりに正面から一生懸命考えていることが、エッセイから読み取ることができます。その小さな種(行い)が芽生え、やがて花を咲かせるように、建学の精神『如我等無異』の継承発展に、脈々とつながっていくのではないかと感じています。

昨今大変残念なことに、福祉を学び、その仕事に携わりたいと考える高校生が減少している傾向にあります。福祉現場を支える担い手の確保は、我が国の深刻な課題ともなっています。このコンテストを通じて、「ふくし」に関心をもち、専門的な知識や技術を学びたい、人を支援する仕事に就きたいと考える高校生が一人でも増えるならば、これほどうれしいことはありません。日本福祉大学は、次世代の「人材」の輩出に、こういった業務を通じて、微力ながら尽力していきたいと考えています。

日本福祉大学教育文化事業室 伊藤歌奈子

◆入賞作品集をご希望の方へ

高校生福祉文化賞エッセイコンテスト入賞作品は、毎回1冊の作品集として発刊、全国の高等学校に贈っています。ご希望の方には、在庫のある限り頒布しております。また、ホームページからも全作品をご覧いただくことができます。

◆申し込み先：日本福祉大学教育文化事業室「入賞作品集」係

〒460-0012 名古屋市中区千代田五丁目22-32

◆ホームページ：<http://www.n-fukushi.ac.jp/50th/essay/>

幸せの種まき 一人が一人を

〳今日は決して怒らない〳と
心に誓いを立てましょう

時に仏さまは私たちの信仰の力を試すために、あえて無理を言う人、意地悪をする人を遣わされます。お題目を唱え、〳今こそ堪忍が試されている〳と強く意識して、精進いたしましょう。

大乗山 法音寺

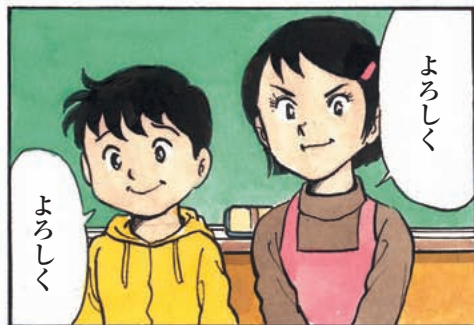
編集後記

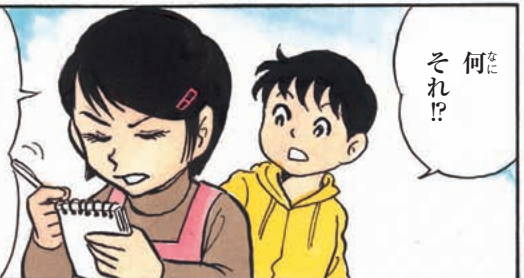
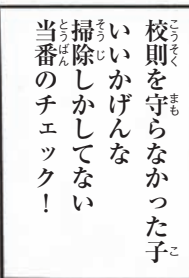
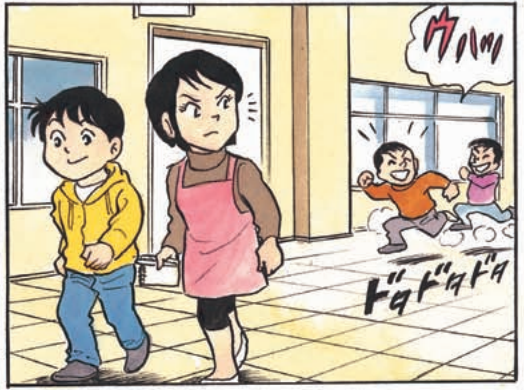
本年一月から『聖の教え』を連載して参りました。一年経ちましたが、もう一〜二年続けさせていただき、最終的には「単行本化」できたらと考えております。〳経典・御書はとっつきにくい〳と言われる方もおられるかもしれませんが、今しばらくお付き合いいただけたらと願っています。

編集にあたり、耳？目馴れない文言に注釈をつけております。この出典は日蓮・法華系各宗教教団発行の事（辞）典によっていますが、それぞれの教団、あるいは教学者により受け取り方に微妙な違いがあつて「日蓮宗大乗山法音寺」の姿勢を示すために、今少し精査が必要との指摘を専門家から受けました。一生懸命調べているつもりではありますが、これまでひよっとして、解釈の仕方に誤りがあつたかもしれません。今後、極力お読みいただく方に疑問を抱かれることのないよう再度検索し直し、精査して参る所存でおりますので、温かい目で本稿を見ていただけますようお願い申し上げます。

学級委員

竹中 淳





翌朝
よくあさ

昨日の
きもの
日直はだれ？
にちなぐ

ボクと
イトウさん
だけど…

黒板がきれいに
くろくばん
消してありません
けしてありません
二度とこんな
ことがないよう
お願いします
ねが

そして
そうじどうばん
掃除当番！

いいかげんな
ぞうきん
雑巾がけでは
こま
困ります
あちこちホコリ
だらけです

ざわ

以上
いじょう
先生に
せんせい
報告して
ほうこく
おきます

ぞわ…

先生に
せんせい
いいつける
のか

クラスの係の仕事は
かひ
クラスみんなの
ためです
ひと
係の人は責任もって
やってよね

何か
なに
意見
いけん
ありますか？

やな
感じ…

…

ミワくん
どうして帰るの？
かえ

あなた
あなた
掃除当番
そうじどうばん
でしょ？

あいいんだ
ミワくん
用があるからボク
よう
代わってやったんだ
か

そんな勝手な
ことダメよ
今度からは
こんど
キチンと私に
わたくし
報告してください
ほうこく

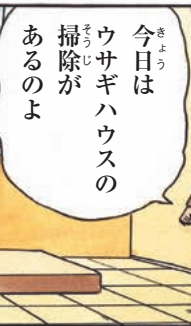
翌日



蓮くん
たのんだよ



何？また
代わってあげ
たの？



今日は
ウサギハウスの
掃除が
あるのよ



ナオくん 今日
塾に行く日
なんだって

黒板も消して
ないじゃない！
だれ？今日の
日直！



モツちゃん
風邪で早退
いいよ
ボクやるから



蓮くん おひとよし
にもほどがある
わよ！何でも
かんでも 簡単に
ひきうけちゃって



バカじゃ
ないの!?



いいじゃん
これくらい



はーあ
蓮くんなんかと
学級委員やる
んじゃなかったア



じゃ 私
ウサギハウスの
掃除してくる

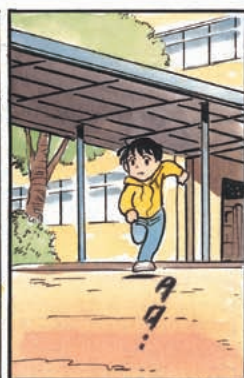


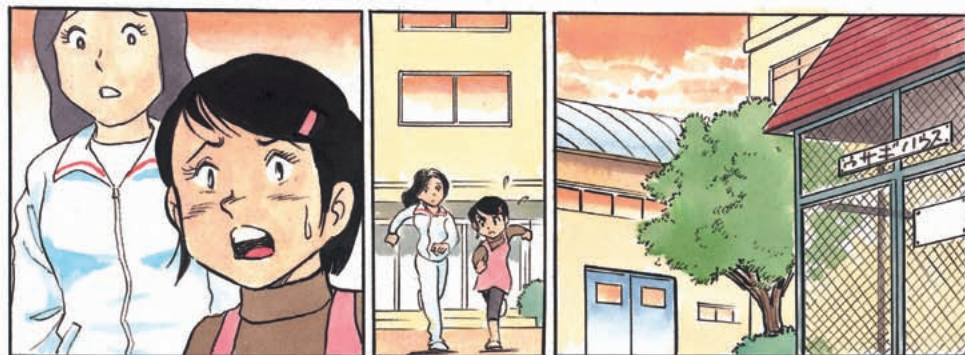
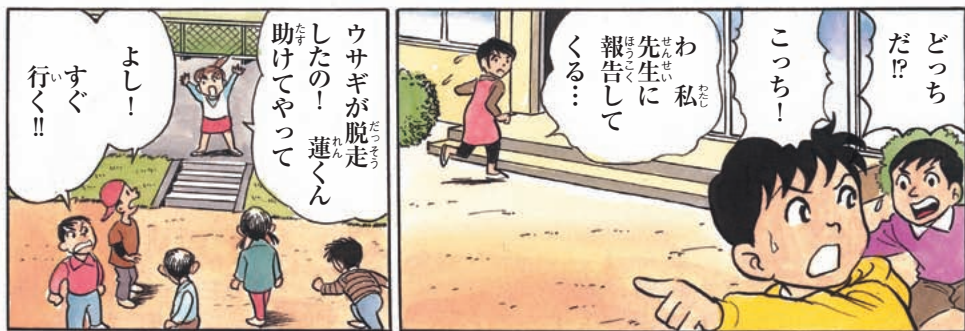
ごめん 終わったら
すぐ行くから

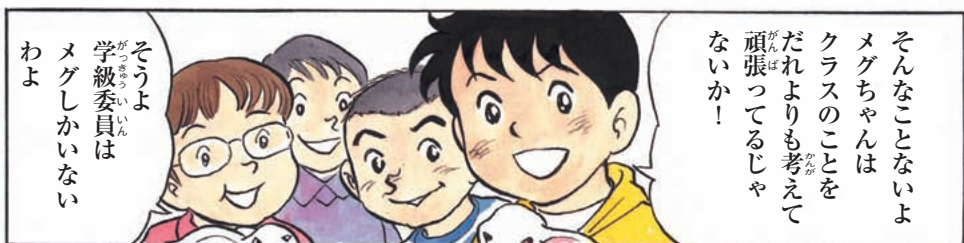
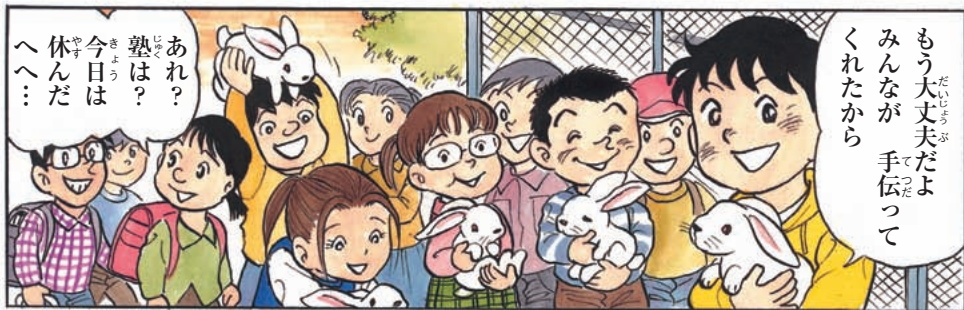


ごめん 終わったら
すぐ行くから











おしまい

法音寺関連書籍のご案内

青山書院刊

東京都杉並区西荻北5-4-1

妙法蓮華経略義 鈴木修学 著

A5版上製・863頁・定価6,000円（税込）

無量義経略義 鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

仏説観普賢菩薩行法経略義

鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

撰法華経略義 鈴木修学 著

A6版皮製・101頁・定価700円（税込）

仏教聖語の解説 鈴木修学 著

B6版・230頁・定価1,800円（税込）

道徳と宗教 鈴木修学 著

B6版・209頁・定価1,000円（税込）

教育まんが

B5判 平均64頁 定価各600円（税込）

八正道の話 因縁の話 菩薩行の話
功德の話 お彼岸のはなし 十界の話
十王の話 定価1,000円（税込）

— その他多数。お問い合わせください。

山喜房佛書林刊

東京都文京区本郷5-28-5

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

浅井圓道 著

四六版上製・202頁・定価1,600円（税別）

大乘山法音寺三徳開教百年史

(1) 安立大法尼の時代

A5版・490頁・定価4,000円（税別）

(2) 宗玄大徳の時代

A5版・516頁・定価4,000円（税別）

(3) 御開山上人の時代

A5版・628頁・定価6,000円（税別）

(4) 第二世日達上人の時代

A5版・714頁・定価7,000円（税別）

(別巻) 仏教感化救済会の信仰

A5版・272頁・定価3,000円（税別）

中央法規出版刊

東京都台東区台東3-29-1

福祉を築く —鈴木修学の信仰と福祉—

西山茂・秦安雄・宇治谷義雄 共著

A5版・224頁・定価3,200円（税別）

日本の福祉を築いたお坊さん

星野貞一郎 著

新書版・160頁・定価800円（税別）

まんが・法音寺物語

法音寺広報委員会 企画

上=安立大法尼の時代

中=宗玄大徳の時代

下=御開山上人の時代

B5版・96頁総カラー・定価各巻1,000円（税別）

仏教タイムス社刊

東京都新宿区市谷町2-7

大乘山法音寺の信仰と福祉

西山茂・小野文瑠・清水海隆 共著

A5版・205頁・定価3,200円（税別）

凡夫を菩薩に転ずる僧伽

仏教タイムス編集部

A5版・132頁・定価800円（税込）

大乘山法音寺の源流と近現代仏教福祉

浜島典彦・清水海隆 共著

A5版・60頁・頒価500円（税込）

お問い合わせは法音寺事務局、又は各支院・
布教所にどうぞ…



自説誓言

一人を導く功德は広大です
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜立庄
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成28年12月号・No.566・平成28年12月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社